经典餘師

書經

四

口 11
1029
26

口11
1029
26

周書

泰誓上

周と王號　周の文王の国号後り武王王諸侯と天子と　因く以て天下を有つの号と為

惟十有三年春大會于孟津王曰嗟
我友邦冢君越我御事庶士明聽誓
惟十有三年春大會于孟津王曰嗟
我友邦冢君越我御事庶士明聽誓
惟天地萬物父母惟人萬物之
靈亶聰明元后

元后天下の萬民を統ぶる者を謂ふ

惟十有三年春大會于孟津王曰嗟
我友邦冢君越我御事庶士明聽誓

惟十有三年春大會于孟津王曰嗟　天下の万民を統ぶる者を謂ふ
我友邦冢君越我御事庶士明聽誓　諸侯と泰誓とふ
惟天地萬物父母惟人萬物之靈亶聰明元后

右諸侯と孟津の地に會合ひしことあり　この時武王のうた我家の事と御ものごとく朕が誓の詞を聽まもるべしと

惟天地萬物父母。惟人萬物之靈亶聰明

作元后元后作民父母。天地之間有生之物皆稟天地之氣以生而人爲萬物之靈故天地之中有形有聲有情有識之物莫不聽命於天地而天地又以父母之道治之故曰作民父母○今商王受弗敬上天降災下民沈湎冒色敢行暴虐罪人以族官人以世惟官是臺榭陂池侈服以殘害于爾萬姓焚炙忠良刺剔孕婦皇天震怒。

今商王受上天降災下民沈湎冒色敢行暴虐罪人以族官人以世惟官是臺榭陂池侈服以殘害于爾萬姓焚炙忠良刺剔孕婦皇天震怒。

作元后元后作民父母。天地之間有生之物皆稟天地之氣以生而人爲萬物之靈故天地之中有形有聲有情有識之物莫不聽命於天地而天地又以父母之道治之故曰作民父母○今商王受弗敬上天降災下民沈湎冒色敢行暴虐罪人以族官人以世惟官是臺榭陂池侈服以殘害于爾萬姓焚炙忠良刺剔孕婦皇天震怒。

姓于殘害以忠良刺剔孕婦○我文考肅將天威大勳未集肆予小子發以爾有友邦冢君誕以爾多士殪戎殷誕受厥命今予惟率爾羣侯爾尹爾士爽邦由哲亦惟有周佐文王誕受羑若予小子其承厥志○王曰嗚呼羣后惟爾衆士有忠于予一人同心同德以予克商旣受紂之身以爾多士殪戎殷誕受厥命今予惟率爾羣侯爾尹爾士爽邦由哲亦惟有周佐文王誕受羑若予小子其承厥志○王曰嗚呼羣后惟爾衆士有忠于予一人同心同德以予克商旣受紂之身以

我文考肅將天威大勳未集肆予小子發以爾有友邦冢君誕以爾多士殪戎殷誕受厥命今予惟率爾羣侯爾尹爾士爽邦由哲亦惟有周佐文王誕受羑若予小子其承厥志○王曰嗚呼羣后惟爾衆士有忠于予一人同心同德以予克商旣受紂之身以

殺○己所可愛○物之善者○悉人○宮室臺榭○金銀○高大之身○上天○敬禮○父母○天地之間有生之物皆稟天地之氣以生而人爲萬物之靈故天地之中有形有聲有情有識之物莫不聽命於天地而天地又以父母之道治之故曰作民父母○今商王受弗敬上天降災下民沈湎冒色敢行暴虐罪人以族官人以世惟官是臺榭陂池侈服以殘害于爾萬姓焚炙忠良刺剔孕婦皇天震怒。

天震怒○神明○大動未集肆予小子發以爾有友邦冢君誕以爾多士殪戎殷誕受厥命今予惟率爾羣侯爾尹爾士爽邦由哲亦惟有周佐文王誕受羑若予小子其承厥志○王曰嗚呼羣后惟爾衆士有忠于予一人同心同德以予克商旣受紂之身以爾多士殪戎殷誕受厥命今予惟率爾羣侯爾尹爾士爽邦由哲亦惟有周佐文王誕受羑若予小子其承厥志○王曰嗚呼羣后惟爾衆士有忠于予一人同心同德以予克商旣受紂之身以

我文考肅將天威大勳未集肆予小子發以爾有友邦冢君誕以爾多士殪戎殷誕受厥命今予惟率爾羣侯爾尹爾士爽邦由哲亦惟有周佐文王誕受羑若予小子其承厥志○王曰嗚呼羣后惟爾衆士有忠于予一人同心同德以予克商旣受紂之身以

大勳未集肆予小子發以爾有友邦冢君誕以爾多士殪戎殷誕受厥命今予惟率爾羣侯爾尹爾士爽邦由哲亦惟有周佐文王誕受羑若予小子其承厥志○王曰嗚呼羣后惟爾衆士有忠于予一人同心同德以予克商旣受紂之身以

大勳未集肆予小子發以爾有友邦冢君誕以爾多士殪戎殷誕受厥命今予惟率爾羣侯爾尹爾士爽邦由哲亦惟有周佐文王誕受羑若予小子其承厥志○王曰嗚呼羣后惟爾衆士有忠于予一人同心同德以予克商旣受紂之身以

命我文考肅將天威大勳未集肆予小子發以爾有友邦冢君誕以爾多士殪戎殷誕受厥命今予惟率爾羣侯爾尹爾士爽邦由哲亦惟有周佐文王誕受羑若予小子其承厥志○王曰嗚呼羣后惟爾衆士有忠于予一人同心同德以予克商旣受紂之身以

命我文考肅將天威大勳未集肆予小子發以爾有友邦冢君誕以爾多士殪戎殷誕受厥命今予惟率爾羣侯爾尹爾士爽邦由哲亦惟有周佐文王誕受羑若予小子其承厥志○王曰嗚呼羣后惟爾衆士有忠于予一人同心同德以予克商旣受紂之身以

乃夷居弗事上帝神祇遺厥先宗廟
考の心なくて友邦家君と世の政治を觀よ紂王悪逆と悛改の心なくして○
祇ざる事弗敬先の
宗廟を遺て祀弗
犧牲粢盛既于凶盜乃曰吾有
既すなわち曰く吾
民有命固懲其侮
民有命と其侮
りと懲こと固
天下民を佑て之が
君と作之が師と
作惟其克上帝と
相て四方を寵綏さ

乃夷居弗事上帝神祇遺厥先宗廟
民有命固懲其侮
上帝神祇の御前にそむき夷居なして事ず先祖宗廟の祀をも遺るゝ衆の
盛犧牲をぐのそなふへきのを人々盗凶食既ゆうの
と吐く曰ゆう吾天
のをふりしく慢
止こといちく○天佑下民作之君作之師
惟其克相上帝寵綏四方有罪無罪

罪有罪無予曷
敢て敢志ざると
越と有んや

予曷敢有越厥志
天の世界と
一下の万民と佑めぐそうよ
り諸侯と守て天子を天
下を守ふ上り立く君となり師
教こびさそふ上帝の御力と揃く四方と
寵綏をたりしこれが罪なりのを討その罪なさざ
敢く私くしやまりなく越○同力度德
同德度義受有臣億萬惟億萬心予
有臣三千惟一心
元を彼と我と武勇力量
その位同さるその德
と度くらべ又我の人れ德同さるを利あくりめく
の義さう違や不
ひまなく勝負の分別なきにあらざるにあらざるこく
紂王たくさん臣下の軍兵万億ありと君臣の心そる
もの軍勢なり三千人なりとそ

商罪貫盈天命誅之予弗順天厥罪惟鈞予小子夙夜祗懼受命文考類于上帝宜于冢土以爾有衆恪天之罰

紂王大逆無道の罪天下に盈く天道に違ひ萬民を虐げ紂王の亡んことを欲す天の命に順て紂王を殷を予ず鈞く天の罰を行ふこれ予一人夙夜懼祗して上帝を文考の神靈に受命まつりて此惡逆のものどもを誅へ

我聞吉人善と爲し惟日足不凶人不善と爲す亦惟日足不今商王受度無とカ行なひ耆老を播棄し罪人と昵比し淫酗肆虐臣下之と化す家ゝ朋して侫を作權ゝ爲ひて相滅す孝無天之顯穢德を聞す

吉人爲善惟日不足凶人爲不善亦惟日不足今商王受力行無度播棄耆老昵比罪人淫酗肆虐臣下化之朋家作侫權相滅無孝顯天穢德

○我聞

ゆゝ先手ちゝ西土の有衆咸ゝく朕が言をよくゝべしゝゝゝのゝゆゝそ

○我聞

我ゝ聞おゝの吉人ゝ常ゝ善支を心ゝ爲ゝけゝ己が欲心より不善支をそのしむりふゝりそ又日の不足ゝ紂王のカ行度なく耆老ゝ德なきの播棄し罪人と昵比し淫と酗ゝ肆虐ゝ臣下化之朋家ゝ權威を以ゝ民と脅ゝ孝無を滅くゝめしゝゝ萬民之多

○惟天惠民惟辟奉天有夏桀弗克若天流毒下國天乃佑命成湯降黜夏命

惟天民ゝ惠む惟辟天ゝ奉有夏桀天ゝ若ゝこゝ克弗毒と下國ゝ流す天乃ちゝ成湯ゝ佑命しゝて夏の命と降黜く

○惟天惠民惟辟奉天有夏桀弗克若天流毒下國天乃佑命成湯降黜夏命

ゝく天ゝ籲うゝ紂王の嫩德上天へ彰ゝ聞しけゝる

民惟辟奉天有夏桀弗克若天流毒下國天乃佑命成湯降黜夏命

民と惠むの上ゝ立ゝ人の上ゝ立ゝ神明の常定なり又辟ゝくやまい奉ゝくとめぐゝそゝぐゝ天子王公子男乃方々い天を桀王ゝい天の道ゝ若がよゝふゝ民とくゝ毒と下國へ流ゝくゝ身ゝありゝ先代夏の民百姓ゝいつゝ道ゝありゝへゝまゝゝ

○惟受罪浮于桀剝喪元良賊虐諫輔

惟受罪桀于浮ゝり元良と剝喪しゝ諫輔と賊虐すゝ己天命有ゝと謂敬行めゝ足

惟受罪浮于桀剝喪元良賊虐諫輔

聖ゝ湯王の命と降黜ゝ滅亡ゝりおゝびゝしゝく

○惟受罪浮于桀剝喪元良賊虐諫輔謂己有天命謂敬不足行謂祭無益

不謂衆益無譸張爲幻無傷厥鑒惟不遠在彼夏王天
暴傷厥無譸張爲幻監惟遠在彼夏王天其以予乂民朕夢協朕卜襲于休祥
予乂民乃文考協朕夢卜襲于休祥戎商必克

殷の代六百有余年つゞき今紂王ひいらく悪逆むしむ朕が夢朕がトと協休祥ト襲ぬ商と戎亡ぶ必ず克ん

受德北夷人有心離德予亂臣十人有心同德雖有周親不如仁人

紂王ひいらく元良と剥喪ぶいい忠臣の賊虐ぐ已くそ天ひう命トひう人天子ふ身と敬行ひう不足ことのい神明と奈何ぬ商ひ戎亡ぶ必ずそのごとくあるんと思ふ〇

受德北夷人有心離德予亂臣十人有心同德雖有周親不如仁人

紂王ひいらく文考と天子ふさんと孫ぶいい謀輔ひのと賊虐ぐ已くそ天ひう命ひう人天子ふ万民とすくひ人ひいらく朕ひう命ひう人靈夢ひうとひりやのうや万民ふさんと又靈夢ひう惟ぐ商ひ戎亡ぶ必ずそのごとくあるんと思ふ〇

天視自我民視天聽自我民聽百姓有過在予一人今朕必往

天の視ひ自ひう我民の視ひ自ひう天の聽ひ自ひう我民の聽ひ自ひう百姓過有ば予一人ひ在今朕必ず往ひ天の畏つゝしんで教のつゝしんで天の見聞のごとくひ低語ふかく屋漏ふかくひ天の見聞のごとくひ已が欲とうまざるひ民人ぜ

受德北夷人有心離德予亂臣十人有心同德雖有周親不如仁人

紂王ひいらく北夷人ひう人衆ひう心も離ぐひう人ひう德へ亂ぐひう賢者ふ將十人ひう心も離ぐ

必ず往ん

我武惟揚て之が疆于侵彼凶殘を取て我伐つ用て張湯よ于て光有

昌哉夫子畏無と或と罔寧ろ執て敵つ非百姓懍懍若ろ執て敵角と崩すが若鳴呼乃德

ひ見及び聞及ぶ〻〻天必ず民人の相し耳〻〻〻

我西土の君子天
之顯道有厥類惟
章ならん今商王
受五常を狎侮し
荒怠して敬せず
自ら天于絶て
怨を民于結

惟彰今商王受狎侮五常荒怠弗敬
自絶于天結怨于民。厥明日戊午の明
日なり王六師を巡
見し衆士卒を誓
教へ君子の面々
父子君臣兄弟夫婦長幼の五の常を狎侮
政事の重と
絶るを
怨と民
朝に涉之脛を斮
賢人之心を剖
て殺戮し四
海を毒痛す姦回
と崇信し師保
放黜す典刑と扉
棄し正士と囚奴

斮朝涉之脛剖賢人之心作威
殺戮毒痛四海崇信姦回放黜師保
屏棄典刑囚奴正士郊社不修宗廟
不享作奇技淫巧以悦婦人上帝弗
順祝降時喪爾其孜孜奉予一人恭
行天罰

斮の朝一水涉るの脛と
剖そ賢人の心と
以威を作し數七つあるを
數人殺戮し四海を毒とふるを痛め姦
回を崇信し師保と放黜し国家の典刑と屏棄し作
法正しき士と囚奴と郊社の祀を不修る宗廟と享ざ
奇技淫巧と悦婦人と悦さし大道に違ふ
天上帝弗順の
代と祝降の時喪とおそびしむ
天下の悪人とおろぼし民とすくふ天の意とうけ
奉天より征伐とおこなふべしと予か命
爾の人々孜孜奉行
古人言ふ有曰く
我を撫すれば則
ち后我を虐すれば

古人有言曰。撫我則后虐我則讐獨夫受洪惟作威乃

則ち雙言獨夫受洪
ひさ惟威と作乃
いち汝の世讐德
と樹う滋
こと務肆ら予小子
誕ま爾衆士と以
て乃の讐と珍殲
す爾衆士其尚く
ハ果毅と迪で以
て乃の辟を登功
多くハ厚賞有ん
迪不ハ顯戮有ん

汝世讐樹德務滋除悉務本肆予小子誕以爾衆士殄殲乃讐爾衆士其尚迪果毅以登乃辟功多有厚賞不迪有顯戮。

天万民と恵后を天り代く
民と子く臨う人く古人の言り民の父母く
とき心が后れ民の讐を殄殲こんくり迪と
后とく民の讐と為ハ本根よりめへく
民を虐ふれく今紂王り万民の見
世の讐なり君とおる身の務ハ人の滋ゆうなく徳と
撤又悪と除のそうく人を辟と登
果毅く心をさざめく汝が辟とつぐく人を辟と登
ざ一弧ま天り軍功有ハ厚く恩賞とたく

嗚呼惟我文考日
月之照臨しるが
若く四方千光
西土于顕うく惟
我有周誕く多方
を受

嗚呼惟我文考若日月之照臨光于四方顕于西土惟我有周誕受多方

（一）嗚呼惟我文考
（二）予克受非予武惟朕文考無罪。
（三）惟我有周誕受多方
（四）若日月之照臨光于四方顕于西土

予受く克ハ予武
く非惟朕が文考
罪無受予く克を
朕が文考罪有く
非惟予小子良こ
無かり

予克受非予武惟朕文考無罪惟予小子良。

（一）予武威あ
ら文考乃陰徳
をなまへりのく
孫かるひいハ朕文考の不徳ありて殷王紂を
ようり予武威あ
ら文考乃陰徳
をなまへりのく
孫かるひいハ朕文考の不徳ありて殷王紂を
（二）天下の諸侯民う為
悪人をのぞれ推く孫と殿り克く
良。
（三）惟
（四）予
（五）受
（六）非
（七）予
（八）武
（九）惟
（十）朕
（十一）文考
（十二）無
（十三）罪
（十四）惟
（十五）予
（十六）小
（十七）子
（十八）良

牧誓

時甲子昧爽王朝至于商郊牧野乃
良とうの無きことを誓ふなり

牧誓

牧を地の名く殷乃都の朝歌の南～

時の誓詞のことなり

時甲子昧爽王朝至于商郊牧野乃

誓王左杖黃鉞右秉白旄以麾曰逖

二月三日癸亥の日了牧の廣野

矣西土之人

家君御事司徒司馬司空亞旅師氏

王の曰嗟我友邦家君御事司徒司馬司空亞旅師氏千夫の長百夫の長及び庸蜀羌髳微盧彭濮の人

の人々もろもろ武王左の手に黃柄の鉞を秉りて逖矣を

千夫長百夫長及庸蜀羌髳微盧彭濮人

王曰嗟我友邦家君御事司徒司馬司空亞旅師氏

王の曰く嗟我友邦家君御事司徒司馬司空亞旅師氏千夫の長百夫の長及び庸蜀羌髳微盧彭濮の人

千夫長百夫長及庸蜀羌髳微盧彭濮人

王の曰く古人言有り曰く牝鷄晨す牝鷄の晨するは無し牝鷄の晨す惟家の索今商王受惟婦言是用

王曰古人有言曰牝雞無晨牝雞之晨惟家之索今商王受惟婦言是用

雨が戈と稱と爾が干を比爾が矛と立て其誓ハん

稱爾戈比爾干立其誓

王の曰く古人言有り曰く牝鷄晨す牝鷄の晨するは無し牝鷄の晨す惟家の索今商王受惟婦言是用

誓の詞有り

王曰古人有言曰牝雞無晨牝雞之晨惟家之索今商王受惟婦言是用

厥肆祀弗答昏棄厥遺王父母弟不迪乃惟四方之多罪逋逃是崇是長是信是使是以爲大夫卿士俾暴虐于百姓以姦宄于商邑

王父母弟不迪。是崇是長是信是使是以爲大夫卿士俾暴虐于百姓以姦宄于商邑。

越厥夫人乃洗腆致告王曰拜手稽首曰予惟曰汝其悉逖乃心乃惟四方之多罪逋逃是崇是長是信是使是以爲大夫卿士俾暴虐于百姓以姦宄于商邑

越厥夫人乃洗腆致告王曰。拜手稽首曰。予惟曰。汝其悉逖乃心。乃惟四方之多罪逋逃。是崇是長是信是使是以爲大夫卿士俾暴虐于百姓以姦宄于商邑。

今予發惟恭行天之罰今日之事不過六步七步乃止齊焉夫子勗哉不愆于四伐五伐六伐七伐乃止齊焉夫子勗哉尚桓桓如虎如貔如熊如羆于商郊

今予發惟恭行天之罰。今日之事。不過六步七步。乃止齊焉。夫子勗哉。不愆于四伐五伐六伐七伐。乃止齊焉。夫子勗哉。尚桓桓如虎如貔如熊如羆于商郊。

克奔以役西土昌哉夫子爾
七乃役世弗昌哉
夫子爾昌弗所其
爾乃躬于戮有

武成
惟一月壬辰旁死
魄越翼日癸巳

武成

乃篇の中二字を以て名と為す商を克の後此文有り

惟一月壬辰旁死魄。越翼日癸巳。王

一月を今の正月と古注一周の正月なり

朝步自周于征伐商。

今乃十一月とて旁といふ誤なり壬辰を二日とするは死魄と朔日と混ず

死とて一日の名にあらず三日乃至六日を通ずる称なり

越翌日癸巳。王

翌日癸巳の巳乃三日乃至六日を越ず周より商迄歩く征伐のこゝろ

厥

厥四月哉生明。王來自商至于豐。乃偃

厥の訓乃

武修文歸馬于華山之陽。放牛于桃

林之野。示天下弗服。

月の二日を哉と云ふ明生と同じ

後王旧の都たる豊の地へ帰馬と放牛とは敵我乃數万の牛馬を

厥乃日かわり

天下太平なるを示す

華山乃牧と桃林乃野原と追歸

服とは武備乃

文徳と偃とは修

厥

厥四月哉生明。王來自商至于豐。乃偃

武修文歸馬于華山之陽。放牛于桃

林之野。示天下弗服。

王朝步自周于征伐商。

丁未祀于周廟。邦甸侯衛駿

奔走執豆遵越三日庚戌柴望大告
武成既生魄庶邦冢君暨百工受命
于周。四月丁卯乃十九日了周の祖廟を祀りて天下
改革しことを告る祭神祠を造りて邦甸侯衛駿奔走その祀の供奠器物祭事の命を
碎公劉ふたゝび駿奔走の人邦甸侯衛乃
至て遵ふの人奔走の人邦甸侯衛乃
山川を望て天神地祇へ武成の功ーを告たてまつる
既生魄とは三月十七日乙巳なり
惟先王建邦啓土。公劉克篤前烈至
王若曰。嗚呼群后。
王若曰く嗚呼群后
后惟先王邦を建
土を啓公劉克前

烈を篤す太王王季
至て肇て王迹と
基す王季其王家
を勤我文考文王
克厥勲を成誕
天命を膺受て方
夏を撫大邦を其
力を畏小邦を其
徳を懐惟九年大
統未集予小子其
厥志ざーと承

于太王肇基王迹王季其勤王家我
文考文王克成厥勲誕膺天命以撫
方夏大邦畏其力小邦懐其徳惟九
年大統未集予小子其承厥志

（又）多邦の群后了謂ふう嗚呼む了ーう先王后稷の時よく土地を啓く邦國の都と建こ諸
矦と封ありて又曾孫公劉の時了ーを民乃爲一農業
とーくりて又前人乃烈と篤ふ又九代大王よ至て仁
徳と積ふ益ふ〳〵民了王ーくきの遂筆そのけう
いくうーをとく王家の爲う其
勤れこーくび又考文王了いうまろく
の勲を成就ーうる天命ーう時節了膺こ方
夏の民と撫やすんじ方民も文王乃徳う帰服せり
そゝも由へ大邦乃諸矦をその威力了畏又小邦の人々

商之罪至底天皇天后土過所名山大川于告曰惟有道曾孫周王發將大正于商今商王受無道暴殄天物害虐烝民為天下正長有含垢忍恥之志○底商之罪告于皇天后土過所名山大川曰惟有道曾孫周王發將有大正于商今商王受無道暴殄天物害虐烝民為天下正長有含垢忍恥之志

文王といつでも懐ふところの文王の九年よりいまゝで天下を大いに有つことい集ざり〳〵此之昔と承つぐ〳〵孫今日その位を

仍て孫今日その位を

皇天后土所過名山大川曰惟有道曾孫周王發將有大正于商今商王受無道暴殄天物害虐烝民為天下正長有含垢忍恥之志○底商之罪告于

通逃主萃淵藪予小子既獲仁人敢祇承上帝以遏亂略貳之人于商郊俟天休命

祇承上帝以遏亂略貳之人于商郊俟天休命

率俾

商の罪と征伐して成底おわりぬるのち皇天后土の名山と大川を經過の人咸〳〵の名山と大川

率俾

商の罪と征伐して成底おわりぬるのち皇天后土の名山と大川を經過の人咸〳〵の名山と大川の神明とをまつり惟ことを仁義乃道と有ものい〳〵聖

人后撥公劉十二代乃勤孫武王名は發ととなふ今日民の寃ら商の悪逆と正〳〵しき人〳〵ふり今商王無道う〳〵その天乃物と暴殄く烝の民と虐害〳〵その身は天下罪人乃主〳〵ふり悪逆とをし〳〵通逃〳〵その淵藪乃ものをつく〳〵鮮の淵よりも獣乃藪ら萃〳〵ごとく〳〵孔この予今ふ民と仁義乃道と有ものい〳〵聖人后撥公劉十二代乃勤孫武王名は發ととなふ今日民の寃ら商の悪逆と正〳〵しき人〳〵ふり今商王無道う〳〵その天乃物と暴殄く烝の民と虐害〳〵その身は天下罪人乃主〳〵ふり悪逆とをし〳〵通逃〳〵その淵藪乃ものをつく〳〵鮮の淵よりも獣乃藪ら萃〳〵ごとく〳〵孔この予今ふ民と仁

率俾

商の罪と征伐して成底おわりぬるのち皇天后土の名山と大川を經過の人咸〳〵の名山と大川の神明とをまつり惟ことを仁義乃道と有ものい〳〵聖

獲之取祇承上帝以遏亂略貳之人于商郊俟天休命

獲之取祇承上帝以遏亂略貳之人于商郊俟天休命

率俾

商の罪と征伐して成底おわりぬるのち皇天后土の名山と大川を經過の人咸〳〵の名山と大川の神明とをまつり惟ことを仁義乃道と有ものい〳〵聖

命肆予東征綏厥士女惟其士女篚

恭天の成命と恭む肆ら予東征〳〵て綏厥士女と綏す惟其士女厥玄黄と篚

恭天の成命と恭む肆ら予東征〳〵て綏厥士女と綏す惟其士女厥玄黄と篚〳〵く我周王

恭天の成命と恭む肆ら予東征〳〵て綏厥士女と綏す惟其士女厥玄黄と篚〳〵く我周王

厥玄黄昭我周王天休震動用附我大邑周

と昭りこゝろハ天休震動〳〵て用て我大邑周ヲ附たり

と昭りこゝろハ天休震動〳〵て用て我大邑周ヲ附たり

大邑周

殷王民をそう〳〵ふ万民紂王乃天下からくさい天の成うの命あり孔天の命と恭まもりて征伐〳〵民の士女老少を綏〳〵ぜ〳〵んと東こむえ

殷王民をそう〳〵ふ万民紂王乃天下からくさい天の成うの命あり孔天の命と恭まもりて征伐〳〵民の士女老少を綏〳〵ぜ〳〵んと東こむえ

恭天の成命と恭む肆ら予東征〳〵て綏厥士女と綏す惟其士女厥玄黄と篚〳〵く我周王

と昭りこゝろハ天休震動〳〵て用て我大邑周ヲ附たり

率俾

商の罪と征伐して成底おわりぬるのち皇天后土の名山と大川を經過の人咸〳〵の名山と大川の神明とをまつり惟ことを仁義乃道と有ものい〳〵聖

率俾

商の罪と征伐して成底おわりぬるのち皇天后土の名山と大川を經過の人咸〳〵の名山と大川の神明とをまつり惟ことを仁義乃道と有ものい〳〵聖

率俾

商の罪と征伐して成底おわりぬるのち皇天后土の名山と大川を經過の人咸〳〵の名山と大川の神明とをまつり惟ことを仁義乃道と有ものい〳〵聖

おりふしたり志ゝ
入ゝくゝもゝの周王
食盡醬をそゝぐ
ゝ合ざゝり王と出むゝくゝ献上ゝゝにゝ簞
此天より照ゝうゝ周王とゝみ祓祥をゝてゝゝう
なりゝ帰附ゝゝゝ天の威光震動ゝゝる万民ゝふ王ゝり
さゝゝへなり

（一）惟爾有神尚克相予以
濟兆民無作神羞既戊午師渡孟津
癸亥陳于商郊俟天休命甲子昧爽
受率其旅若林會于牧野罔有敵于
我師前徒倒戈攻于後以北血流漂
杵一戎衣天下大定乃反商政政由

舊釋箕子囚封比干墓式商容閭散
鹿臺之財發鉅橋之粟大賚于四海
而萬姓悅服

（天地神明尚くゝ祚と相ゝゝゝ
北民乃昔ゝと潤ゝゝ民とゝゝゝ
うゝゝ神明の羞と作ゝゝゝ四百里の道と五ヶ日ゝゝゝ
津とゝゝゝ商の郊ゝゝ陳をゝゝへけ紂王乃至と俟ゝゝ勝
負を天命乃休ゝゝゝその明日甲子乃昧爽ゝの紂
王七十万の軍旅と率ゝゝゝ牧乃廣野ゝゝ會合ゝゝ
林のゝゝ一すの空地をゝゝゝゝ合戦ゝおゝんで
そゝ周の師衆ゝゝゝ敵をゝゝのゝゝ俄ゝをむけて
戈と倒執ゝゝ後陣ゝゝゝ功をふゝゝ前兵を後向す
攻ゝゝ我ゝとゝゝゝ北ゝゝゝゝゝゝ血ゝゝれ
て川をゝゝゝ杵も漂流るゝゝゝなり紂王ゝゝゝ
賊ゝゝゝ生害あり武王殺害ゝゝのゝゝあり
ば此と号ゝゝ我衣ゝ天下大定ゝりとゝゝを
敵すること有ゝ周
前徒戈と倒ゝゝ
後于攻ゝ以て北
血流て杵と漂ハ
すゝゝび戎衣ゝ
て天下大ゝ定ま
乃ち商乃政を反
政舊ゝ由箕子ゝ
囚ゝて釋ゝ比干
ゝ墓と封ゝ商容
閭ゝ式す鹿臺
之財と散ゝ鉅橋
之粟と發ゝ大ゝ
四海于賚て而ゝ
て萬姓悅服す

のち武王心を思ひ堯舜の聖人湯王乃建るに商乃政務い極めて善し決断ありて民の治法も由舊よりへ賢人箕子が囚人となりしを釈ちしめ王より封をこいさるゝ紂をいさめ朝鮮の国王となりしこと比干が墓を封こうもうの容といふか賢人乃住る閭りたづねゆき式礼ありて道とこいふか鹿臺乃府をきく財宝と万民り散うし鉅橋の倉と発そ栗と出し民とあたり四海の万姓人々皆と得て悦服

賢位事惟能重民五教惟食喪祭悼信明義崇徳報功垂拱而天下治

周の

烈爵惟五分土惟三建宮惟

土と分と惟三官と建と惟賢位事惟能民の五教と重す惟食喪祭信と悼し義を明らう徳と崇び功と報ひ垂拱而天下治る

洪範

惟十有三祀王箕子于訪王乃ち言て曰嗚呼箕子惟天陰ふり下民を潟て厥居を相

位りその五の教を父子君臣夫婦兄弟長幼をこの道民の重なるとをり食物のけまび民生育ず喪中の礼をけまび神明の祭とをそれ冥加をとりて信の心いつとうう徳なる人と崇ぶ身の務のこゝろ君ふる人い垂拱のくしてそれ九重乃内り手と垂拱のくして天下大平と治まることをなり

洪範

洪範とい天地の洪なる法と論のべる範い法なりむかし洛水の流り神亀いでゝその背甲にこの九乃疇とう天の道を示しうつくしことを

惟十有三祀王箕子于訪王乃言曰。嗚呼箕子惟天陰隲下民相協厥居我不知其彝倫攸叙。

（十三年殷記へこと天下周り定まるの

協つて我其彝倫の叙う般を知不

箕子乃ち言て曰く我聞在昔鯀洪水を陻其五行を陳ると汨帝乃ち震怒して洪範九疇を畀不彝倫の攸叙鯀則ち殛死す禹乃ち嗣興天乃ち錫禹洪範九疇と彝倫攸叙

書經卷四

後武王天地の大法と箕子と謀たまふその詔よ曰く嗚呼箕子恭く思ふに天神高うして在ます蒼々冥々中ゝ陰々として下界万民孰ると卑となく吉凶禍福乃因縁あるの如く相協ふ事なれどもその天の通人間の倫理いうに彝常ありといふことに惜く

箕子乃言曰我聞在

その叙ありまさにきこゝろみんとす

昔鯀陻洪水汨陳其五行帝乃震怒

不畀洪範九疇彝倫攸斁鯀則殛死

禹乃嗣興天乃錫禹洪範九疇彝倫攸叙

箕子乃ち言て曰く我聞在昔鯀洪水を陻其五行を陳ると汨帝乃ち震怒して洪範九疇を畀不彝倫の攸叙鯀則ち殛死す禹乃ち嗣興天乃ち錫禹洪範九疇と彝倫攸叙

初の一を曰五行次の二を曰敬五事を用ゆ次の三を曰農用ゆ次の四を曰協用五紀を用ゆ次の五を曰建用皇極を用ゆ次の六を曰乂用ゆ三徳を用ゆ次の七を曰明用ゆ稽疑を用ゆ次の八を曰念用庶徴を用ゆ次の九を曰嚮用五福威用六極

鯀の治水の性と陻汨五行の陳と天帝人間の冥加と彝倫攸叙の天の洪範九疇と錫と洪水の治ると天下大平の瑞ひとしく加彝の倫理數ひとしく身をおほし極死也陰陽和合の聖人の徳ま〳〵神〳〵しきこと

初一曰五行次二曰敬用五事次三曰農用八政次四曰協用五紀次五曰建用皇極次六曰乂用三徳次七曰明用稽疑次八曰念用庶徴次九曰嚮用五福威用六極

名こゝに第一より五行とつゞく五行とは人道天道をも五事とこゝに第一より五行とつゞく五行とは人道天道をも五事とこゝろを天と人と合一するものにて九疇の總本とは五行を以て水と汨陳する本と汨水數治の四行とこれを天下治るにふさはしく鯀が罪を極死ゆへんと

次の八を曰念を
庶徴を用ゐ次の
九を曰嚮を五福
を用ゐ威すを六
極を用ゆ

一を五行一を曰
水二を曰火三を
曰木四曰金五を
曰土水を潤下と
曰火を炎上と曰
木を曲直と曰金
を従革と曰土を
稼穡ス潤下を
鹹きを作炎上

○一五行。一曰水。二曰火。三曰木。四曰金。五曰土。水曰潤下。火曰炎上。木曰曲直。金曰従革。土爰稼穡。作鹹。炎上作苦。曲直作酸。従革作辛。稼穡作甘。

○第二と五事を詳悉なり第三より八の政務と農原より用ゐ次の第四を朕日星辰歴数季節の五の紀と世の曆とより眼りも第五を皇王の徳の極と建用。六番を上より立ち三の徳の治用のいとう。七番を八番を陰陽過不及より庶吉凶の徴を明ひより用ゐ。九番を五の福ありの人の勧懲より用ゐ又凶より極至六ケ条を威ゐきより用ゐ以上その条目乃細なることも後乃段より事乃疑惑稽審を明ひより用ゐ。

番より火を生じ水を北方を生じとの天を陽なり北を陰なり一を陽數うへ水を生じとこと天の道

こふしろ地より気のぼり雨空より降ても同理あり陰中よやどりしものや水く相気と以く形と生じ出ぐるものや万物乃形もろもろの初を微ふより漸をこゝに次より木の形を三なり次を火乃形を固しめ四とに土の形中より四方へのびしき大うへ五とに又五行乃性質をつゝ時を水を潤ひて下へおうごとつく火の性い炎上とつゝ木乃性い直なると曲しくし火の性い炎上とつゝ木乃性い直なると曲しくし○金い物を断裁ス従革ひるゝ物と稼うへそこつうへ穡うへそこのぐく又五行乃味ひ

一を水い鹹一を火い苦木い酸一を金い辛土い甘と作曲直を酸を作従革を辛と作稼穡ハ甘と作

○二を五事一を曰貌二を曰言三を曰視四を曰聴五

曰貌。二曰言。三曰視。四曰聴。五曰思。

曰思欽ヨ恭ト曰言ヨ從ト曰視ヨ明ト曰聽ヨ聰ト曰思ヨ睿ト曰恭ヨ肅ト作從ハ乂ト作明ハ哲ト作聰ハ謀ト作睿ハ聖ト作

貌曰恭言曰從視曰明聽曰聰思曰睿恭作肅從作乂明作哲聰作謀睿作聖。五事ノ人間身体ニテ外ニアラハルヽ者ヲ挙ル。五ケ条乃事ニ。第一ハ貌ハ人ノ身ノ容儀ヲ云。恭ハ慎ミ敬フノ意。肅ハ粛ト同シ。ツヽシミ厳ナル意。第二ハ言ハ人ノ口ニ出ス所ノ語ヲ云。從ハ順ノ意。乂ハ治ノ意。第三ハ視ハ目ノ用ヲ云。明ハ物ヲ見テ善悪ヲ分チ是非ヲ弁ヘ知ルヲ云。第四ハ聴ハ耳ノ用ヲ云。聰ハ能ク聞キ分ケテ善悪ヲ聴キ取ルヲ云。第五ハ思ハ心ノ用ヲ云。睿ハ深ク通ジ遠ク及ブヲ云。聖ハ通ジ明ラカニシテ事ニ臨ミ物ニ応ズルノ徳ヲ云。貌ハ容ナリ。容ハ動作ノ間ニ在リ。言ハ口ニ出ス。視ハ目ニ在リ。聴ハ耳ニ在リ。思ハ心ニ在リ。容ハ言ヨリ粗ク。言ハ視ヨリ粗ク。視ハ聴ヨリ粗ク。聴ハ思ヨリ粗ク。思ハ睿ヨリ粗シ。故ニ貌ヲ以テ言ヲ統ベ。言ヲ以テ視ヲ統ベ。視ヲ以テ聴ヲ統ベ。聴ヲ以テ思ヲ統ベ。思ヲ以テ睿ヲ統ベ。睿ヲ以テ聖ヲ統ベ。聖ハ則チ天ニ合ス。故ニ聖ヲ以テ作ス。

恭ハ容ヲ粛ムルヲ云。容ハ動作ノ間ニ在リ。粛ハ容ヲ粛ムルヲ云。容ハ動作ノ間ニ在リ。故ニ恭ヲ以テ粛ヲ統ベ。粛ヲ以テ乂ヲ統ベ。乂ヲ以テ哲ヲ統ベ。哲ヲ以テ謀ヲ統ベ。謀ヲ以テ睿ヲ統ベ。睿ヲ以テ聖ヲ統ベ。聖ハ則チ天ニ合ス。故ニ聖ヲ以テ作ス。

五事ノ人間身体ニテ外ニアラハルヽ者ヲ挙ル。五ケ条乃事ニ。第一ハ貌ハ人ノ身ノ容儀ヲ云。恭ハ慎ミ敬フノ意。肅ハ粛ト同シ。ツヽシミ厳ナル意。第二ハ言ハ人ノ口ニ出ス所ノ語ヲ云。從ハ順ノ意。乂ハ治ノ意。第三ハ視ハ目ノ用ヲ云。明ハ物ヲ見テ善悪ヲ分チ是非ヲ弁ヘ知ルヲ云。第四ハ聴ハ耳ノ用ヲ云。聰ハ能ク聞キ分ケテ善悪ヲ聴キ取ルヲ云。第五ハ思ハ心ノ用ヲ云。睿ハ深ク通ジ遠ク及ブヲ云。聖ハ通ジ明ラカニシテ事ニ臨ミ物ニ応ズルノ徳ヲ云。貌ハ容ナリ。容ハ動作ノ間ニ在リ。言ハ口ニ出ス。視ハ目ニ在リ。聴ハ耳ニ在リ。思ハ心ニ在リ。容ハ言ヨリ粗ク。言ハ視ヨリ粗ク。視ハ聴ヨリ粗ク。聴ハ思ヨリ粗ク。思ハ睿ヨリ粗シ。故ニ貌ヲ以テ言ヲ統ベ。言ヲ以テ視ヲ統ベ。視ヲ以テ聴ヲ統ベ。聴ヲ以テ思ヲ統ベ。思ヲ以テ睿ヲ統ベ。睿ヲ以テ聖ヲ統ベ。聖ハ則チ天ニ合ス。故ニ聖ヲ以テ作ス。

恭ハ容ヲ粛ムルヲ云。容ハ動作ノ間ニ在リ。粛ハ容ヲ粛ムルヲ云。容ハ動作ノ間ニ在リ。故ニ恭ヲ以テ粛ヲ統ベ。粛ヲ以テ乂ヲ統ベ。乂ヲ以テ哲ヲ統ベ。哲ヲ以テ謀ヲ統ベ。謀ヲ以テ睿ヲ統ベ。睿ヲ以テ聖ヲ統ベ。聖ハ則チ天ニ合ス。故ニ聖ヲ以テ作ス。

三ヨ八政一ヨ曰食二ヨ曰貨三ヨ曰祀四ヨ曰司空五ヨ曰司徒六ヨ曰司寇七ヨ曰賓八ヨ曰師

○三八政。一曰食二曰貨三曰祀四曰司空五曰司徒六曰司寇七曰賓八曰師。天下国家の政務の八ケ条ナリ。○食ハ食物ナリ。○貨ハ金銀ナリ。○祀ハ天地神明ヲ祭ル事ナリ。○司空ハ日用ノ助ケナリ。○司徒ハ人間冥加ノ基ヲ教ル官ナリ。○司寇ハ国家ノ安危ヲ守ル官ナリ。○賓ハ客ヲ待遇スル事ナリ。○師ハ軍旅ノ事ナリ。○食ハ人民乃朝暮ニ欠ク可カラヌ基ノ一ノモノニテ。日用ノ助ケナル金銀ヲ貨ト云フ。祀ハ天地神明ヲ祭ル家乃祖宗ナリ本ヲ忘ルヽヲ不孝ト云フ。司空ハ人間冥加ノ基ヲ教ル官ニテ。人民ノ宅居ト田地農業水旱等ヲ司ル官ナリ。○司徒ヲ学問ノ徒ヲ司ル官ナリ。○司寇ハ国人ノ悪人ヲ禁制スル官ナリ。○賓ハ客ヲ待遇スル事ナリ。○師ハ軍旅ノ事ナリ。

四ヨ五紀一ヨ曰

五之皇極皇其有事ー
ら一む○五皇極皇建其有極斂時五
福用敷錫厥庶民惟時厥庶民于汝
極錫汝保極。何事の至極い中く物の形もまるく偏倚なくして正く
北極南極の極と同理なり四方より正中へ法則と
なつて斂まる規矩とい五福とい中へ
義なり福とい人乃行の義と道
福幸なり五の數ひかきつ次主從親子夫婦兄弟
歳二之曰月三之曰日四之曰星辰五之曰曆數

曆數。歳ハ月ト日ト星辰ノ春夏秋冬ノ四季ヲ備ヘタル
長短ノ宿度トヲ南北四方七ツノ星ヲ又水火木金土ノ五星ノヤド
リヲツ。曆數ハ數千年ノ日月ノ數ト曆ハ日月ノ蝕二十四季七十二候ト示ー〳〵民ノ田農等ノ
義ヲリ福トい人乃行ノ義ト道ヲリ福幸ヲリ五ノ數ヲリかきつ次ハ山世ノ
主從親子夫婦兄弟

凡厥庶民淫朋有と厥庶民淫朋と無人比德有と無惟皇極を作
凡厥庶民猷ろこと有爲こと有守ること有汝則いち之と
念極于協不咎于罹不皇則いち之と受而く康く而
丞あり子好

長幼の交際ヲリ万民の鏡ヽこのことバ福を
斂ムるつ又庶民ノ爲ヨ有極を建ウ人
下の庶民も又皇の極德ヲ于て鑑見ヲつひとり身
と保の極德と錫ヲリうふるらよりもおなりずや

○凡厥庶民無有淫朋人無有比德
惟皇作極皇の極德上ヲリきらひ時を
德ついきくとでし
うふるーと

○凡厥庶民有猷有爲有守汝則念之不協于極不罹于咎。
皇則受之而康而色曰予攸好德汝
則錫之福時人斯其惟皇之極。

人之能有爲こと有其行と羞使而邦其昌なり凡そ厥正人既に富て方に穀せよ汝而乃家于好こと有使ること能弗ば時人斯其辜ならん其德と好こと無こと于て汝之こと福と錫し雖いも其汝咎を用と作

官祿高く名明なるは人の身に懲戒めく畏をもつむ

（一）人之有能有爲使羞其行而邦其昌凡厥正人既富方穀汝弗能使有好于而家時人斯其辜于其無好德汝雖錫之福其作汝用咎（人の才智ありく能事をえうこと有ても爲にならざる所のものは其の行施を羞くしうるの心正しく人の上に立ても官祿をほろぼされうの身を富しめ穀うらへべし

（二）無虐煢獨而畏高明（煢獨とは人の孤りし而乃家ともむつまじく好のうく好そうろうの人の而乃家よりも置ふが却てく器量のうも好むこと無人と見ばやまりうその福祿と錫えるを

家と御ることの君を人と用ろを第一と德になくものと引拳りへてもうく悪人と悪といふみをとぜく〳〵すくざると要と皇極と好るへい民人こる悪といゆーむこ岬乃風り靡ぐこ〳〵と庶民とこる事と獻くこうこる爲営かど次りのなり君〳〵こるの性質あり又もの手こうけて物とようたりみちびくをー〳〵そこの人掻こと不悦きこ咎こと罹らこと下へもなり立ぜこるのを中段乃人こ〳〵上へもの人々と胸中こ受容こをこ〳〵人と康ぐ和ぐの色あ〳〵衆人皆らこと見〳〵予好ところい德なりこと化ーこう德をおう人やうこをぶくこれと賞美ー〳〵官祿を錫をー愼こ皇王乃極福と佐うこよまろ〳〵べー福とい祿のこ〳〵困究う〳〵いこころげもをこと煢獨乃ろうとい虐戻をこと善とな〳〵人い福幸とならべー

（一）人之有能有爲使羞其行而邦其昌凡厥正人既富方穀汝弗能使有好于而家時人斯其辜于其無好德汝雖錫之福其作汝用咎

（二）無虐煢獨而畏高明

偏無陂無王之義（一）遵王之義（二）

（一）無偏無陂遵王之義。

（二）遵王之道無有作惡遵王之路無偏無黨王道蕩蕩無黨無偏。

無有作好遵王之道無有作惡遵王之路無偏無黨王道蕩蕩無黨無偏無陂遵王之義。

無偏無陂王道平平無反無側。王道正直會其有極歸其有極。

此四句詩之風雅之人乃吟詠之辭。

歸其有極（一）會其有極（二）

（一）歸其有極。

（二）會其有極。

有極歸其有極

有極歸其有極。

歸其有極之義。

歸其有極之義。

有極歸其有極之義。

有極歸其有極之義。

有極

正直二曰剛克三曰柔克平康正直彊
弗友剛克爰友柔克沉潛剛克高明
柔克　身乃德天下国家の推し握く衆へと治しむる
ふ三未克一沉潛なるハ剛克一潛なるハ剛克一
高明なるハ柔克一友なら
す

時乃政務を正直
すふと温朴の風
彊一ふる友なり
○某三意うう友
のつをー○沉ミ潛
乃くせーうそ剛
用ゆべーとそ○高
より先へ明爽う
取くその英気を
一品うーそ剛と
ふー○惟辟作福惟辟作威惟辟玉
食臣無有作福作威玉食其富于而家凶于而國
人用側頗僻民用僭忒

惟辟福と作惟辟
威と作惟辟玉食
す臣福と作威と
作玉食をこと有
こと無臣之福と作
威と作玉食する
有其而の家于害
あり而の國于凶
人用て側頗僻
ふして民以て僭
忒す

七ヶ稽疑擇んで卜筮の人を建立して乃ち卜筮と命ず

曰く雨曰く霽曰く蒙曰く驛曰く克曰く貞曰く悔

乃命卜筮

第七ヶ疑惑を稽へ擇んで卜筮の官人を建立おきて乃ち卜筮と命ず

○七稽疑擇建立卜筮人

大夫となれば其の家つひの災害に逢べし　其の身なれば其の家つひの凶事あり　滅亡ることおのづから其の官位の人々側隣の心と生ずる下の民人ふる身の分限をもよりそこの僭ずる上をまつ務ひ

曰雨曰霽曰蒙曰驛

卜筮の人を建立おきて卜筮と命ずる

○曰雨曰霽曰蒙曰驛

ここは卜筮の兆をいふ雨の形と水と雲晴とそのほかつひくさ火のなり蒙くらくらしい樹木枝葉よりおこる水の性なり驛しい驛絡中よりつひに屬合ふるい金の性なり土を尋ぬ和うるなどもまたくり合ふたいつるふりのことをふせざるをえ強克なりたるたくぐむるたいなり。貞とい易乃下の卦の名なり

曰克曰貞曰悔

といその兆と水と雲晴と

○曰克曰貞曰悔

ここは卜筮の兆をいふ雨の形と水と雲晴とそのほかつひくさ火のなり蒙くらくらしい樹木枝葉よりおこる水の性なり驛しい驛絡中よりつひに屬合ふるい金の性なり土を尋ぬ和うるなどもまたくり合ふたいつるふりのことをふせざるをえ強克なりたるたくぐむるたいなり。貞とい易乃下の卦の名なり

悔とい上乃卦ありたるふ泰乃卦ふ上の卦三て悔とふ外卦乃ことなり下の三乾と貞ふ内卦

ふ○凡七卜五占用二衍忒立時人

作ム卜筮三人占則從二人之言

七个條乃内雨霽蒙驛克の五と占ふたその用ふる事なり

○凡七卜五占用二衍忒立時人

作ム卜筮三人占則從二人之言

七个條乃内雨霽蒙驛克の五と占ふたその用ふる事なり

○汝則有大疑謀及乃心謀及卿士謀及庶人謀及卜筮

ちもつく謀ふたいことの疑惑ありこと大事なりたるたへ先まず心ふ下ぬつく謀ふたいこと次ふ卿士ふ夫次ふ庶の人ふり謀たつねこと各の智まそ正質をこととりまとふるなと映しらふたいことを不得ふそ卜筮乃神意をとふり亀乃甲を焼と亀卜ふいふく大ふ

汝則有大疑謀及乃心謀及卿士謀及庶人謀及卜筮

汝則いち大疑有謀ふと乃の心ふ及ぶし謀ふと卿士ふ及ふ謀ふと庶人ふ及ふ謀ふと卜筮ふ及せ

汝則从一从龜从筮从卿士从庶民从是之謂大同身其康彊子孫其吉○逢汝則从一从龜从筮从卿士逆庶民从龜从筮从汝則从一从龜从筮从卿士逆庶民逆吉○卿士从龜从筮从汝則从一从龜从筮从庶民逆吉○庶民从龜从筮从汝則从一从龜从筮从卿士逆吉

○龜從筮從卿士從庶民從是之謂大同身其康彊子孫其吉○逢汝則从一从龜从筮从卿士从庶民从龜从筮从卿士逆庶民从龜从筮从汝則从一从龜从筮从庶民逆吉○卿士从龜从筮从汝則从一从龜从筮从卿士逆庶民逆吉○庶民从龜从筮从汝則从一从龜从筮从卿士逆庶民逆吉

○汝則從龜從筮逆卿士逆庶民逆卿士從龜從筮逆庶民逆吉庶民從龜從筮逆卿士逆吉

○汝則從龜從筮共違于人用靜吉用作內吉作外凶。

○汝則从龜从筮共違于人用靜吉用作內吉作外凶。疑と稽ふるの道は龜卜占筮と重と其次の條のごく上下乃人々もろこがんと大同大吉と云ふの意なり○龜筮共違于人用靜吉用作內吉作外凶。龜卜めに二さうまどふを外事ならば吉ゝぬことを何ぞ吉ゝ云ふべき○靜ふべき時を動ふ〳〵事よたりさうらんを不吉ゝ云ふべし

八庶徵曰雨曰暘曰燠曰寒曰風曰時五者來備

八庶徵曰雨曰暘曰燠曰寒曰風曰時五の者來ル

備いつゝ各其叙
をいとなまれバ庶
草蕃蕪す一も極
まり備いまさバ凶
一も極まり無き
バ凶

時五者來備各以其叙庶草蕃蕪一極無凶。　草ハ草の徴ハ徴の五ヶ条ニ
ふるまひのことをいふこの五ヶ条
ハ時節よろしくして来ればその叙
をとゞこほらず来備ハ五
行の徳をいつくしみ五事の
ととのひ五政の草木蕃蕪ハ雨と水と
穀をそだめ庶乃暘ハ火の寒い金より風ハ土なり燠い春ニ属し
寒ハ木なり燠ハ夏ニ属し
来ハ木なり燠ハ夏ニ属し
ハ時節よろしくして五行の徳
備りて五事ととのひ五政
備りて草木蕃蕪し穀
物よくみのり庶乃暘
寒燠風ハ時節
順々に来ハ
無少も凶
年なり

曰休徴曰肅ふれ
バ時雨若ゞ〻曰
乂ふまでバ時暘若
ゞ〻曰哲ふまでも
時燠若ゞ〻曰謀
ふれバ時寒若ゞ
〻曰聖ふれバ時

曰休徴曰肅時雨若曰乂時暘若曰哲時燠若曰謀時寒若曰聖時風若曰狂恒雨若曰僭恒暘若曰豫恒燠若曰急恒寒若曰蒙恒風若。　国家を治るに君ことの善行状ハ
天よりこの休祥徴をくだし
ハ五事のおこなひのよろしきハ天よりこの休祥徴をくだし
よくうるひいる雨若しそれ君の身よく乂修ときハ
それより若ゞしてよく暘ときハ君下と指めぐ
るべし時節燠うるおひて物うるそれ君事と謀らひ
たまふことはもひらかにして物うるふ粛寒気のとゝ
むるべし時節寒ふれバ物をそこなひ通ずることなし聖ときハ物をそこなひ
むるべし君道理より通ずることなし聖ときハ物をそこなひ
ゞく風いより若ゞしてよく暘ときハ君の身行
以上休徴条々なり○君の身行
ひきゝさまれ天よりこの咎乃徴以下のぐるがごと
しゝく君の心もて狂妄ゝまゝバ恒々雨ふるより
うる日和さざうさらず君乃身洗ひ越く道たがふこと
さゝ恒よ暘てゝ〻かにくるうのごとくうるうる君おこなひ
ろくなりてきゝ燠うるうるすぎく物こ
なるうるうるの身だしやくなりてきゝ燠うるうるすぎく物こ
ゞくくさうく君のそろゝゝ急窓うゝてゆるうのけること
おゝ寒気ほのりうるのるらぐまるく君蒙ゝ〻物こ
おゝいまゝうるバ恒よ暘てゝ〻かにくるうのごとくうるうる君おこなひ
風若ゞ〻曰咎徴
曰狂ふまでバ恒雨
若ゞ〻曰僭ふまで
バ恒暘若ゞ〻曰
豫ふれバ恒燠若
ゞ〻曰急ふまでバ
恒寒若ゞ〻曰蒙
ふまでバ恒風若ゞ
ふ

曰王省惟歲卿士
惟日歲月日時無易百穀
用成乂用明俊民用章家用平康日
月歲時既易百穀用不成乂用昏不
明俊民用微家用不寧

○曰王省惟歲卿士惟日歲月日時無易百穀
用成乂用明俊民用章家用平康日
月歲時既易百穀用不成乂用昏不
明俊民用微家用不寧

曰王省惟歲卿士　曰王は王の行状道理得や失やと考へ省は清ずゞしくよく〳〵君臣の間とこつ〳〵その微なきをこゝろみ惟は思ふ心にて君過まちなきやうにと

九ニ五福一ニ曰
壽二ニ曰富三ニ
曰康寧四ニ曰好
攸德五ニ曰命ヲ
考終

六極一ニ曰凶短
折二ニ曰疾三ニ
曰憂四ニ曰貧五
ニ曰惡六ニ曰弱

壽。二曰富。三曰康寧。四曰攸好德。五
曰考終命。人間ニ福分五ツアリ第一ニ壽命
ニテリ富ヲ三テリ康寧並病
ノ物ヲ

一曰凶短折。二曰疾。三曰憂。四曰貧。
五曰惡。六曰弱。ヲトいヒモ〳〵キヲヲヲモ短
折ヲいヒヲクなヲ〳〵如死ヲヲク
甘ヲ二ニ疾病三テリ心ヅクシ憂患ヲヲリ四テリ貧
乏五ニハ惡醜ヲヲ〳〵キ姿ヲリ六テリ身の弱ヲヲ
人ニよリめ〳〵まヲヲ〳〵しれを
六ツの困極ヲヲ〳〵ヲヲ名ばケヲリ

○九五福一曰

月めぐり行箕箕乃分野ニ入
九ツとす箕の星ハ風を好む箕星ヲ雨と好む
ハ必ど雨又ハ風を生ず

○六極

人間ニ福分五ツアリ第一ニ壽命
ニテリ富ヲ三テリ康寧並病
ノ物ヲ

旅獒

惟克商ニ克テ遂ニ
道ヲ九夷八蠻ヲ
通ず西旅厥獒ヲ
貢ス太保乃チ
ち旅獒ヲ作テ用
テ王ヲ訓

旅獒

惟克商遂通道于九夷八蠻。西旅底
貢厥獒。太保乃作旅獒用訓于王。武王
ノ時周の武王天下ヲ知ヲめヲ〳〵ヲ
西の旅国より獒ヲ貢ス
この大犬ヲ献上ヲ

惟克商ニ克テ遂ニ道ヲ九夷八蠻ヲ通ず西旅厥獒ヲ貢ス太保乃チ旅獒ヲ作テ用テ王ヲ訓

曰嗚呼明王慎テ
徳ヲ四夷咸ク
賓ス遠邇有ト無

曰嗚呼明王慎徳四夷咸賓遠邇畢獻方物惟服食器

○曰嗚呼明王慎徳四夷

武王ヲ訓戒
そヲまヲ

用 明王徳と慎こうべ〳〵その身正〳〵く儉省をつ
とめ恵をかけどこ〳〵もへ四方より
その国乃主乃来朝をるを皆賓客のごとらく遠遐
のさべいちく方角〳〵の産物を貢り献ト
衣服食味器用のかうり〳〵耳目めつ〳〵
華侈〳〵うをを求むべうなきの 王
乃昭徳之致千異姓之邦無昏厥服
分寶玉于伯叔之國時庸展親人不
易物惟徳其物 徳の致とい四方の国より献ず
る貢物なり王より方物と異
姓乃諸矣方へ昭示〳〵拝分せしめその賤と廃お
こ〳〵ぬゆうく宝玉い伯叔乃諸矣うへ分賜り
物をその親戚の情をますく展をるのし九て器
物をむそのよろ〳〵を器物いその人の
徳にけく〳〵そ
貴とたりのり 〇徳盛不狎侮押侮君

ごら不君子と押侮ごとバ以く人心を盡すこと罔小人と狎侮ごとれバ以て其力と盡すこと罔

耳目よ役せらと不バ百度惟貞人を玩ハ徳と喪るよ物と玩ハとべい志ざしを喪るふ志い道を以て寧言い道とを以て接る

子罔以盡人心狎侮小人罔以盡其力

凡を人さぜんとるまひおのづから
ふれるゆへ物を狎侮ごとるへたるへい君〳〵
身をりく〳〵そ人と心の忠
と尽こるへ又小人のをもうたつるめ〳〵
いざ〳〵おのをそ〳〵次りのりごとを
とい

〇不役耳目百度惟貞玩人喪徳玩物喪志以道寧言以道接

人の病とつかい目を
こふ貞〳〵人と玩弄とつく色情詐曲
りふくるとい身の徳ふるとを喪うく物のこ
とびりふくるとい志ふくづもろ〳〵うへなり
人の志向り〳〵義理りこうの道とそむけざるこれい

無益を作て有益を害せ不を功乃いち成異物を貴ひ用物を賤め不ハ民乃いち足犬馬其土性を非ざるべ畜不珍禽奇獣国中に育ふ不ハ遠物を寶とせ不ハ則いち遠人格寶とする所惟賢なるべハ則いち遇人安んぞ

貴異物賤用物民乃足犬馬非其土性不畜珍禽奇獣不育于國不寶遠物則遠人格所寶惟賢則邇人安

○不作無益害有益功乃成不

無益を作ること○不作無益害有益功乃成不

その身寧しくして道ありやすい何ぞ異なり口に言ハ出づ行ハ人に接りて身を害

無益を作ること○不作無益害有益功乃成不

無益あることを作ハまたく又益有ることを害ふこと○害有益功乃成不

異しき物と貴むところとをうとく世間通用の物と賤むところをけもべ常ありの不足なり

土地の性ありて大馬畜ふべく益ありて象の虎の孔雀いんこうと珍奇禽獣を常ここの

むべにそうずして驕りて身をわろぶべくして遠方の物を宝とおもい人を

苦労しして貶とつひやとそこれを万民ううことを生そうけまべ遠方異国まろくもさずくして

格るべし右人居心徳の肝要ありとうく宝とこと

やまい好うて細行を謹まざるべからず小徳の積ありて大徳となり九仞の功を一簣を

呼旻夜宧勤不矜細行終累大德

○嗚呼旻夜或い勤不ハと宧ふと細行を矜不ハ終ありに大德を累いす山を為こと九仞功一簣を虧

嗚呼旻夜或い勤

ごとくそこれを延そのにあらざることひわん○嗚呼旻夜或い勤不ハと宧ふと細行を矜不ハ終ありに大德を累いす山を為こと九仞功一簣を虧

遠きものいきふくしくして太平く

荷の土虧欠しても就てざるうりおしうん○その山成

数十丈うり築たてを今簣一

允迪玆生民保厥居惟乃世王

○允迪玆生民保厥居惟乃世王。まことに玆と迪ふ生民厥居を保んじて惟乃いち世王のうく生民保居をそ太平を

金縢

既克商二年王有疾弗豫二公曰我
爲王穆卜周公曰未可以戚我先
王武王の病危きに周公王の爲に神明に誓ひ請命をなせ
王武王商を克つ明年を二年と次のゝ豫ぶるなり
豫ぶるなり憑ゆ豫の字ふるへ
王乃疾もつて重けまゐりその
うふたるゝむとゝ弗豫といふ人の病重けまゐりその
ふるへるゝ太公望召公奭

金縢

書なり夫と織ゝ

うけ王を世万葉の位を安ゝ
うこの篇い君ふゝゝ
なり天子を大聖人なり武王
大保を訓戒を
くつゝまぐんぐ
ずゝ

公乃いち自以て功と爲三壇
と爲て墠と同ふし壇と南方於爲
て北面して周公
立焉璧と植珪と
秉て乃いち太王
王季文王に告

史乃いち冊祝して曰惟爾元孫某
罹虐の疾に遘ふ
若爾三王是丕子
之責天子に有ゐ且

の二公評議ゝ
周公のうへまぐ
ふに及ぶ
ずゝ

○公乃自以爲功爲三
墠同墠於南方北面周公立焉
植璧秉珪乃告太王王季文王

周公この功とぐ
文王三君の神霊に
きこうめ爲
まゐ壁と珪と二つの玉と秉植うる礼拝ゝ

○史乃冊祝曰惟爾元孫某遘厲虐
疾若爾三王是有丕子之責于天以
旦代某之身

大事ゝ
と大史ゝ冊祝の辞とゝ

とゐて某之身を
代よ

予仁若考能多材多藝能事鬼神乃元孫
不若旦多材多藝不能事鬼神
乃命于帝庭敷佑四方用能定爾子
孫于下地四方之民罔不祗畏嗚呼。

こたへくに曰ゆう三王の神霊ようくきこしめしうく今
爾の元孫なる武王の疾ともぐくり屬虐りいたり
う〳〵丕子武王乃ち青を天より任ドのことろうく望
らくい旦ぐ身と王うり代うふく王とゐ乃世うりのう
うゐ万民を安堵せしめ周の徳を施さ
しめうへぐそ旦といふ周公の名なり

予仁
若考能多材多藝能事鬼神乃元孫
不若旦多材多藝不能事鬼神（世を
治て現在乃民うを施との仁を元孫武王長まりも
又幽冥よ於うゐ鬼神うり役使まつる法心仁を旦
不若なり多材多藝とゐ祖考乃鬼神うり事、
まつるふ法発明そ予長まりとゐくろたり

乃命于帝庭敷佑四方用能定爾子
孫于下地四方之民罔不祗畏嗚呼。

無墜天之降寶命我先王亦永有依
歸。此武王にくしたがひ上帝の庭うる命せうまつり
て殷乃悪虐をとろほし四方の民を佑
て天乃めぐくと万民うを敷ひどゝ再ゝち三王の子孫
ふ〳〵吾武王成王康王子子孫々うゐいつるかすぐくと
下地よ安堵なさしめ万民こゝろをつくし畏祗まさうひ
なう〳〵今雨ふる宝命を墜ことなくろをつくし上帝神霊のり〳〵天上帝うり王よ降なま
おくろへるゐ再の神霊ととゐめ先王の神霊も依帰あ
ふまゝこと
そとなり

我我其以璧與珪歸俟爾命爾不許
我乃屏璧與珪。今我元亀のト占とゐる祈と許るふや否ひ
命と俟りのなうり〳〵安堵しうる王の病乃愈と俟のとり〳〵許うと
于定む四方之民
祗と畏不と罔鳴
乎天之降せる寶
命と墜すこと無と
我先王も亦永く
依歸有

今我卽命于元龜爾
命す爾之我よ許
さゐ我其璧と珪
與とゐて歸て再
の命ゐ俟ん再ち
我こ許さ不我乃
いち璧と珪與と

屏ゑん

乃いち二龜ゑに
す一ゑ習て吉ゑる
ゑ籌を啓ひて書
と見ゑ乃いち幷
て是吉なり公曰
體ゑ王其害罔ん
予小子新ゑ三
王于命ぜらるゑて
惟永く是圖を終
茲侯俾能予一人
と念ふ

公歸て乃いち冊
と金縢之匱中于
納王翼日乃ち瘳

三龜一習吉啓籌見書乃幷是吉公曰體王其罔害予小子新命于三王惟永終是圖茲侯俾能念予一人

神ゐ事ゑるに従ひ
の式を占者三人三龜と卜占ふに三ながら
吉と習ふゐて書を藏ひ府の籌を啓ひて
吉兆なるを見ゑて乃ち幷て是吉なり公曰
王の病癒ゑ玉體ゑ王其害罔ん予小子ゑ三王ゐ命ぜらるゝ
ゑうゑと見へ
ゐゐの意なり

滕之匱中王翼日乃瘳公歸乃納冊于金

周公祝冊を匱に
納ゐ

武王既ゑ喪て
管叔及ひ其群弟
乃ち國於流言
て曰公將ゑ孺
子於利ゑら不ん
と將

周公乃ち二公
ゑ告て曰我之辭
弗ん以て我
先王ゑ告すこと
無ん周公東ゑ居
と二年則ち罪
人斯ゑ得ゐ

武王既喪管叔及其群弟乃流言於國曰公將不利於孺子

さめく歸ゐその翼日
王の病癒たまふ
叔とたゝ却ゑて周公
人を武王の弟ゐ
ゐるに乗して管叔蔡叔霍叔の三人謀
ゐ天下の不利なる
ゐひやしりゐ

周公乃告二公曰我之弗辭我無以告我先王周公居東二年則罪人斯得

周公ゐ大公召公の二人ゑ
曰ゐたまふ流言ゐとせよ君臣の重
黄泉乃下ゐくに
ともむなしく黙止ぐゐ我身と避ざゐ
先王の神靈ゑひみちく

後于公乃いち詩を爲て以て王に貽る之と名て鴟鴞と曰王も亦未敢て公と誚未

王名之曰鴟鴞王亦未敢誚公　其後周公

秋大ひに熟くて未ず穫天大ひに雷電して以て風ふく禾盡く偃大木斯ち拔邦人大ひに恐る王と大夫盡く弁して以て金縢之書を啓いて乃いち周公自うして以て功と爲武王に代らんと請を得り

禾盡偃大木斯拔邦人大恐王與大夫盡弁以啓金縢之書乃得周公所自以爲功代武王之說。　この秋を豊年とこゝろへいふ

二公及王乃問諸史與百執事對曰。

信噫公命我勿敢言　王もとより太公召公このことばかりを諸史官と百執事こゝろえゐる所を周公乃ち成王公卿諸大夫をめしつれ弁服を御廟にいたりなをびり金縢の書を一見ありて周公の武王の身代にたつ中より周公の祝いの願書を得へ

公勤勞王家惟予沖人弗及知今天動威以彰周公之德惟朕小子其新逆我國家禮亦宜之。　王この書を手より執なひ泣くのたまふ

王書を執て以て泣て曰其穆卜すること勿も晉公王家に勤勞す惟予沖人及弗今天威と動して以て周公之德を

彰い次惟朕小子其新逆我國家の禮亦之よ宜ー

王郊と出天乃いち雨ふりて風と反禾則いち盡く起二公邦人よ命凡を大木の優所盡く起而之を築しむ歲則いち大よ熟せ

大誥

王若曰猷大誥爾多邦越爾御事弗再多邦越ひ再ち御事よ詰天よ予まれ弗割と我家于降ー少くも延不共よ惟ふ我幼沖人疆無大歷服と嗣哲を造て民を康ならしめ弗矧んや其能天命を格知すること有ら曰んや

已ざんや予惟小

詔うの辭文乃体なり

王若曰猷大誥爾多邦越爾御事弗

再天降割于我家不少延洪惟我幼

沖人嗣無疆大歷服弗造哲迪民康

矧曰其有能格知天命

周公身執一政こと周公王と詰達をうの多邦御事乃人々に誥して三叔叛逆をるを以て天下の重きを弔恤のいびしくして艱難のあり少くをたくひうる周の家と割やぶることの延にんこの思ひとなることを恐うし無疆大歷天下の重きを負ひ沖人うーうる天位と嗣ぎ服とをとらけ明哲なるーひと造く万民と康安ーむさえ迪びくことい造ざるを況や天命とよく格ー知ののいろーどもに

大誥

人凡木所偃盡起而築之歲則大

熟

王都の郊外まく出御おりて周公とまいうーう一雨ふるやいうやく周公とまいうーう一雨ふるやいうやく周公とまいうーう一雨ふるやいうやく

予渭水を涉り若し
予惟往て朕が
濟らん彼を求む
敷貴て前人の
受命を敷て茲大
功を忘不予敢て
天の降せる威用
于閉不
寧王我が大寶龜
を遺り天の明
を紹で卽ち命
て曰く西土于
大顚有西土の人
代と
○寧王遺我大寶龜紹天明卽
命曰有大顚于西土西土人亦不靜
越茲蠢。（先王の廟ぐりつげく龜卜を以
西土の亂ると早く知ると寧
王を武王なり龜ト大寶と
賢くこのころ天明らかり紹介
る天の命じたまふをさころ今武王崩じ四
方の国いまだ大に顚さざりお
り武庚と三監と異心の
○殷小腆誕敢
紀其叙天降威知我國有疵民不康
曰予復反鄙我周邦今蠢（今周の世な
聖人王者の后なる
国を立おくなりふり天降威うひく殷と亡
んとつふとつふと小腆の国をとうとて
国り康なりざる疵ありふ〳〵我西
殷の代り反復周の邦と分く鄙邑りせんとの
叙と紀ためふ〳〵本のごく
亦靜
よ越て蠢
殷の小腆誕敢
て其叙と紀す天
威を降せざる我
國の疵有て民の
康うく不を知予
復せんと曰て反
て我周邦を鄙よ
せんとす今蠢さ
り
今の翼日民獻十
夫有予を翼以て
○今翼日民獻有十夫予

于て救寧して圖功を武我大事の休有い朕卜并て吉なり

肆ユ我友邦の君越び尹氏庶士御事に告曰ユ吉卜を得ふりユ惟爾庶邦を以て于殷の逋播の臣と伐爾庶邦の君越び庶士御事反ざるを不ユ罔曰艱ユ大なり民靜ならず不亦惟王宮邦君の室ユ在越ユ予小子考翼征す可うう不とらん王害ぞトユ違い不らん

肆ユ予沖人永く艱を思て曰嗚呼允に蠢ふり鰥寡哀い哉予造い天役なり大ふるを遺し艱を朕が身ユ投ず越ユ予

翼以于救寧武圖功我有大事休朕卜并吉

（二〇）献なり夫とい賢人をいつくしむの心を翼乃ち日ふりとなり貞者十人さふうく民と救寧めぐり武王の圖功たかとなりユを翼ふり民乃ち悉く民乃ち悉く西心人とかろがさんし戎事をおこしうへその吉凶とト占ふり人さふうトト占も吉なり少このいくさ休美しとなり

（二）肆ユ予告我友邦君越尹氏庶士御事曰ユ吉卜ユ予得吉卜ユ予惟以爾庶邦

（二〇）肆ユ我友邦の君越び尹氏庶士御事に告曰ユ吉卜を得ふりユ惟爾庶邦を以て于殷の逋播の臣と伐爾庶邦の君越び庶士御事反ざるを不ユ罔曰艱ユ大なり民靜ならず不亦惟王宮邦君の室ユ在越ユ予小子考翼征す可うう不とらん王害ぞトユ違い不らん

于伐殷逋播臣爾庶邦君越庶士御事罔不反曰艱大民不靜亦惟在王

（二〇）邦君以下の官の注を前ユ出ふり是周公乃辞なり衆ユ告ふりふ庶邦君ここのふり吉事なり卜占を得ふりふより庶邦を引つまふく殷乃臣下乃逋播ユ悪人を伐を吉とふり庶官の人々幾内を出ふりふを不欲ふりふを大なる艱ふとをおもふりふを三叔のふりふり一同ユ征伐乃ち考翼の人々ユ考翼不可征王

害不違卜

（二〇）邦君以下の官の注を前ユ出ふり是周公乃辞なり衆ユ告ふりふ庶邦君ここのふり吉事なり卜占を得ふりふより庶邦を引つまふく殷乃臣下乃逋播ユ悪人を伐を吉とふり庶官の人々幾内を出ふりふを不欲ふりふを大なる艱ふとをおもふりふを三叔のふりふり一同ユ征伐乃ち考翼の人々ユ考翼不可征王宮邦君の室ユ在越ユ予小子考翼征す可うう不とらん王害ぞトユ違い不らん

（二）肆ユ予沖人永思艱曰嗚呼允蠢鰥寡哀哉予造天役遺大投艱于朕身

（二）肆ユ予沖人永く艱を思て曰嗚呼允に蠢ふり鰥寡哀い哉予造い天役なり大ふるを遺し艱を朕が身ユ投ず越ユ予

越予沖人不印自恤義爾邦君越爾多士尹氏御事綏予曰無怒于恤不

可不成乃寧考圖功
予沖人亦成王之
ことを以て常に艱難の中に
民の男女その害を
御事予を綏んじて
曰く恤まずんばあ
ああ乃の寧考乃
圖功を成さざる
らる可うんぬ不

已ゝ予惟小
子敢て上帝の命
を替ず天寧王
休して我小邦周
を興せり寧王惟
ト用ひて克茲命
を綏んじ受今天

○已予惟小子不敢替上帝命天休
于寧王興我小邦周寧王惟ト用克
綏受茲命今天其相民矧亦惟ト用
嗚呼天明畏弼我丕丕基

予沖人亦成王なり
今天下の蠢動
人の義を
むるに於
ゝ再諸官の人々を予と綏
く世乃憂苦して比必勞ふ
ゝ共に成就なるを
ゝ寧考武王の圖功なるを見て
ゝ使ふと
ゝ遺ふ
ゝ恤と
ゝ寧人の成功業と
ゝ寧人の蠢動
ゝ寧人の寡
ゝ予の
ゝ造業の天
ゝ何分
ゝ今既に天
ゝ予
ゝ自
ゝ恤と
ゝ不

其民を相く矧んや亦惟ト用ゐるをや嗚呼天の明畏我丕丕の基を弼く

王の曰く爾惟舊人爾丕克遠省爾寧王の若勤哉天閟毖我成功所予不敢不知哉天閟毖むるを我成功乃所予敢て寧王の圖事を極卒不ばらん不諱ふ予大いに我友邦の君と化誘す天恤の辭を紹く其我民を考ゝ予曷

曰爾惟舊人爾丕克遠省爾知寧王
若勤哉天閟毖我成功所予不敢不
極卒寧王圖事肆予大化誘我友邦
君天紹恤辭其考我民予曷其不予
前寧人圖功攸終天亦惟用勤毖我
民若有疾予曷敢不于前寧人攸受

其前寧人圖功乃
攸王て終不ん
や天亦惟用て我
民を勤恤しむ
疾有が若し予易
敢て前寧人乃受
攸の休王て畢
不ん

王の曰昔朕其逝
とゝろが若朕艱
を言て日ふ思考
室を作既法を
底て厥子乃いち

休畢

家ふ舊しき人々前代乃ことを克く遠省こゝ
上寧王の勤労ふりしこと本よりもろ〳〵
但し乱のうごづさし初めれば
ふりもの我悪人をのぞき功を成の所
寧王の圖事を
必ず我ふり友を邦の君たちの感を化誘くなり天う
十の賢人をたやひ又亀トの休あり〳〵我を集悦た
まふお辞を我民の帰服をゝゝ考えるも知ざし
もろ〳〵ばれ寧王乃圖功を終ざし〳〵うはざる〳〵
国家ふり悪人ふり民の為ふり疾あるがざし〳〵れ
いま天乃勤恤ふりふり寧王と寧王ふ事し人々の
休美を畢たるこざし〳〵ふをうし〳〵

○王曰若昔朕其逝朕言艱日思若
考作室既底法厥子乃弗肯堂矧肯
構厥子乃弗肯播矧肯穫厥
考翼其昔朕其逝朕言艱日予有後弗棄基肆子曷
敢不越卬敉寧王大命

昔ふん命とぐざし悪人征伐よ
逝とつひしも国家の難をのぞんと日ふ思念と
軽ぐしさゝゝあ〳〵だ辟を考室を作ん
ゝそなひなりすゝ法をつふり梅をし子の身よい
ふりうる堂基をとをなさゞざれば況て構成をいゝこと
べくゝるおゝ〳〵だ辟を父乃の田地を艾苅〳〵てあ
んふりその子播種をとせを況ゝや孰〳〵て穫取
といはひひもうし実よそのぐ〳〵考翼我周の代の
基を創ひしまふ予悪人を誅伐いゝざゝ〳〵めるば
我基業を棄たふ寧王乃大命〳〵と敉存ざ〳〵めや

○若兄考乃いち友有て厥子を伐よ
厥養其勧て敉弗んや

若兄考乃いち友
昔て堂せ不が若
知や昔て搆へん
や厥父苗ざりす
厥子乃いち昔て
播弗知や昔て穫
んや厥考翼〳〵
ふ其昔て予後有
基を棄弗と曰や
肆ふ予曷ぞ敢て
卬ふ越で寧王乃
大命と敉不んや

若兄考乃いち友
有て厥子を伐よ
厥養其勧て敉
弗んや

王の曰嗚呼肆ㇾ哉爾庶邦の君
越び爾御事邦を
爽つてする哲ㇾ
由亦惟十人上帝
の命を迪知越び
天恍と棐爾時ㇾ
敢て法を易と罔
矧や今天戾と周
邦于降て惟大ㇾ
人と艱しめ誕ㇾ
鄰く厥室于晉伐
爾も亦天命の易
不ㇾと知不

庶邦君越爾御事爽邦由哲亦惟十
人迪知上帝命越天棐忱爾時罔敢
易法矧今天降戾于周邦惟大艱人
誕鄰胥伐于厥室爾亦不知天命不

ざるべくんや況て
考い武王りたるく
たるく民養を邦
御事の人々よたるく
の敵を勸つざるふつるく
友を四方の国よたるく子ハ民百姓ㇾ

○王曰嗚呼肆ㇾ哉爾

王曰く嗚呼肆ㇾ哉
再もくたる
さう邦を爽うる
帝の命と天の恍た
右れば悪人を伐
今天の戾うくと
三叔乃艱大り周室を胥伐

予永く念て曰天
惟殷を喪ぼと穡
夫の若し予曷を
敢て朕が畝を終
不んや天亦惟前
寧人于休す

予永念曰天惟喪殷若穡夫
予曷敢不終朕畝天亦惟休于前寧
人。穡夫は農夫なり天乃殷を喪亡ㇾ
田地乃畝を
寧人の功を休ㇾ

○予未ㇾ

予未ㇾ

予曷其極ㇾ
予曷其極ㇾ

予曷敢不終朕畝天亦惟休于前寧
人。穡夫は農夫なり天乃殷を喪亡ㇾ
田地乃畝を
寧人の功を休ㇾ

○予未ㇾ

予曷其極ㇾ

疆土矧今卜并吉肆朕誕以爾東征

疆土矧今卜并吉肆朕誕以爾東征

天命不僭卜陳惟若茲。予今天意と
占ふくふを
指ㇾ

天命不僭卜陳惟若茲。予今天意と
占ふくふを
指ㇾ

予曷敢不終朕畝天亦惟休于前寧
人。穡夫は農夫なり天乃殷を喪亡ㇾ
田地乃畝を
寧人の功を休ㇾ

○予未ㇾ

予曷其極ㇾ

予曷敢不終朕畝天亦惟休于前寧
人。穡夫は農夫なり天乃殷を喪亡ㇾ
田地乃畝を
寧人の功を休ㇾ

○予未ㇾ

予曷其極ㇾ

疆土矧今卜并吉肆朕誕以爾東征

疆土矧今卜并吉肆朕誕以爾東征

天命不僭卜陳惟若茲。予今天意と
占ふくふを
指ㇾ

天命不僭卜陳惟若茲。予今天意と
占ふくふを
指ㇾ

敢て于ㇾ
を敢て于ㇾ
定ㇾ

敢弗于從率寧人有指
循ざるなり先王彊を安んじ
悪人と征伐とべ
ㇾ

敢弗于從率寧人有指
循ざるなり先王彊を安んじ
悪人と征伐とべ
ㇾ

敢て于ㇾ
を敢て于ㇾ
定ㇾ

敢弗于從率寧人有指
循ざるなり先王彊を安んじ
悪人と征伐とべ
ㇾ

敢弗于從率寧人有指
循ざるなり先王彊を安んじ
悪人と征伐とべ
ㇾ

トの陳する惟茲
乃若ー

微子之命

王若曰猷殷王元子惟稽古崇德象賢統承先王修其禮物作寘于王家。

王若曰猷殷王元子。惟稽古崇德象賢統承先王修其禮物作寘于王家。

成王こゝろざす武庚と征伐たりそのち微子を

命ー

ことば

陳ー

王若曰猷殷王元子惟稽古崇德象賢統承先王修其禮物作寘于王家。

王若曰猷殷王元子。惟稽古崇德象賢統承先王修其禮物作寘于王家。

再筭を引以て東国の三叔を征伐たまふ天乃

命ー

陳ー

若茲ー

文例

微子之命

封命ー

嗣ー

成王こゝろざす武庚と征伐たりそのち微子を

王若曰猷殷王元子。惟稽古崇德象賢統承先王修其禮物作寘于王家。

不忘上帝時敬下民祗協庸建爾于上公尹茲東夏

微子ようゝ湯王乃献と践修こゝ身よりおこるひその令聞をさんぐ神明さんめいに格慎ふかく先祖と孝心とあつく嘉よみし忘れず上帝とその祭祀と敬うやまい協げることようやまって東下民ぢぐもうやまい恭つゝしみ成王と微子の徳と篤く

夏の地に封じ国君となし諸侯の位上たゝ公とし宋の国なり

○欽哉

往敷乃訓慎乃服命率由典常以蕃王室弘乃烈祖律乃有民永綏厥位

毗予一人世世享徳萬邦作式俾我有周無斁

服命とは上公の命しゝうこうの冠服その外格式の定まりあるを

○鳴呼往哉惟休無替朕命

右誥命の辞

て世々徳と享萬邦と率由して東夏と乃の先祖の徳の烈と弘いよ乃の有民と律して永く厥位と綏んじ予一人と毗て世々徳と享萬邦と率由して東夏と往て

大邑を東国の洛于作る四方の民大に和會す侯甸男邦采衛百工播民和見士于周公咸く勤乃ち洪大誥治を詰

王若曰く孟侯朕が其弟小子封惟乃の丕顯考文王克く明德慎罰を慎む

千東國洛四方民大和會侯甸男邦采衛百工播民和見士于周公咸勤乃洪大誥治

この四十八字を洛誥乃最初発端乃文脱く

金縢乃前十六日のことなり周公新大邑を洛邑とトして基をはじめ四方乃民和會集く版築人夫のとつともめでたき旬乃公侯男采衛のくに百の工正まで民を播く周の政務大小乃

王若曰孟侯朕其弟小子封惟乃丕顯考文王克明德慎罰

この文より康誥發端の詞なり王を武王乃諡命なり朕が弟の小子封といふ康叔乃名なり諸侯の孟となむ王のもの

不敢

敢て鰥寡と侮不庸べきと庸祗べきと威す民を顯つとく用て肇我區夏を造越我一二邦以修我西土惟修る我西土惟時怙冒る上帝于聞て帝休す天乃ち大に文王に命じ

侮鰥寡庸庸祗威威顯民用肇造我區夏越我一二邦以修我西土惟時怙冒聞于上帝帝休天乃大命文

死刑罰咎のこと考文王を明德を以く民を仁たゝひ功德丕り天下を顯明く

王應殷誕受厥命越厥邦厥民惟時叙乃寡兄勗汝小子封在茲東

戎殷を殪く誕く厥命を受越ひ厥邦厥民惟時叙す

乃の嘉兒最ふり
津ま汝小子封茲
東土ま在

王の曰嗚呼封汝
念いん哉今民将
ま祗ぐ乃ちの文
考と遹て厥
で徳言と衣ふ
在んし将往て殷
の先哲王と敷求
して用て民と保
父一汝丕ま遠く
商の耆成人と惟
の身ま裕ふら
ま在命と廃不

王の曰嗚呼小子
封乃の身ま恫瘝
敬哉天畏忱を
棄く民情大ま見
可小人保ん難
往て乃の心と盡
康じて遜豫と好
と無ま乃ち其民
と又ひふり我聞
曰怨大ま在不亦
小ま在不惠ふと
惠ふい不ふと懋と

用て民と康保
天于弘ま若徳乃
の身ま裕ふら王
ま在命と廃不

王の曰嗚呼小子
封乃の身ま恫瘝
敬哉天畏忱を
棄く民情大ま見
可小人保ん難
往て乃の心と盡
康じて遜豫と好
と無ま乃ち其民
と又ひふり我聞
曰怨大ま在不亦
小ま在不惠ふと
惠ふい不ふと懋と

封汝念哉今民将在祗遹乃文考紹
乎ふり衛乃国とおさふ

王の曰嗚呼。封汝念哉今民将在祗遹乃文考紹
天帝休ーうひふ文王り命ーふふ寡兄も勖ーカふ
ふうりふ殷と殪伐ふふ邦民叙ふり丕ま大
乎ふり衛乃国とおさふ

王の曰嗚呼。封汝念哉今民将在祗遹乃文考紹
天帝休ーうひふ文王り命ーふふ寡兄も勖ーカふ
ふうりふ殷と殪伐ふふ邦民叙ふり丕ま大
乎ふり衛乃国とおさふ

聞衣徳言往敷求于殷先哲王用保
父民汝丕遠惟商耆成人宅心知訓
別求聞由古先哲王用康保民弘于
天若徳裕乃身不廃在王命

聞衣徳言往敷求于殷先哲王用保
父民汝丕遠惟商耆成人宅心知訓
別求聞由古先哲王用康保民弘于
天若徳裕乃身不廃在王命

子封恫瘝乃身敬哉天畏棐忱民情
大可見小人難保往盡乃心無康好
逸豫乃其又民我聞曰怨不在大亦
不在小惠不惠不懋

子封恫瘝乃身敬哉天畏棐忱民情
大可見小人難保往盡乃心無康好
逸豫乃其又民我聞曰怨不在大亦
不在小惠不惠不懋

○王曰嗚呼小子封。恫瘝乃身。敬哉。天畏棐忱。民情大可見。小人難保。往盡乃心。無康好逸豫。乃其又民。我聞曰。怨不在大。亦不在小。惠不惠。不懋。

○王曰嗚呼小子封。恫瘝乃身。敬哉。天畏棐忱。民情大可見。小人難保。往盡乃心。無康好逸豫。乃其又民。我聞曰。怨不在大。亦不在小。惠不惠。不懋。

○王の曰嗚呼小子封。恫瘝乃の身。敬哉。天の畏棐忱。民の情大ま可見。小人難保。往て乃の心と盡。康じて逸豫と好と無ま。乃ち其民と又ひふり。我聞曰。怨大ま在不亦小ま在不。惠ふい不ふと懋と。

○王の曰嗚呼小子封。恫瘝乃の身。敬哉。天の畏棐忱。民の情大ま可見。小人難保。往て乃の心と盡。康じて逸豫と好と無ま。乃ち其民と又ひふり。我聞曰。怨大ま在不亦小ま在不。惠ふい不ふと懋と。

懋め不と

己んや汝惟小子乃の服惟王を弘む殷の民を應保して亦惟王を助け天命を宅て新民を作

王の曰嗚呼封敬しんで乃の罰を明らかにし人小罪有ち乃ち大罪有ち非乃ち惟終自作不典式て爾ば厥罪小有とも乃ち殺不んばる可うず不乃ち大罪有ち非乃ち惟眚災適爾ば既に道て厥享を極る時乃ち殺可うず不

王の曰嗚呼封叙有時乃ち大ひに明服すまい惟民其勅め和を懋む疾有ば若くすまいば惟民其畢く咎を棄赤子と保んず

尽くる政事をいつも康楽たのしみ且我聞おうべし小子依ど身の行状と懋むつとめざるべし言よく怨とうらみを軽乃大道理と恵ぐみと恵いざることなかれ又助ふる民乃心徳と新あらたに清くせよと

○己汝惟小子。乃服惟弘王應保殷民亦惟助王宅天命作新民。又詔ゆう汝乃心服とすべきい王の徳を弘ろる殷乃身の行状と懋むつとめざるべし言よく怨とうらみを軽乃大道理と恵ぐみと恵いざることなかれ又助ふる民乃心徳と新あらたに清くせよと

○王曰。嗚呼。封敬明乃罰。人有小罪。非眚乃惟終。自作不典。式爾有厥罪小。乃不可殺。乃有大罪。非終。乃惟眚災適爾。既道極厥享。時乃不可殺。

王又詔う封汝人を刑罰するふことい至く重をつつしまざるべからず人有小罪非眚乃惟終自作不典式爾有厥罪小乃不可殺乃有大罪非終乃惟眚災適爾既道極厥享時乃不可殺

王の曰嗚呼封叙有時乃ち大ひに明服すまい惟民其勅め和を懋む疾有ば若くすまいば惟民其畢く咎を棄赤子と保んず

○王曰。嗚呼。封有叙。時乃大明服。惟民其勅懋和。若有疾。惟民其畢棄。若保赤子。惟民

其康乂。又詔う罪乃小大なり刑罰を軽こと重こと

ろが若くす惟民其康ン乂ろ

汝封人を刑し人を殺こと無まと汝封又曰く人を劓則すること非ず或ハ人を劓則すること無れよ

王の曰く外事ハ汝時皐を陳して司をして茲殷の罰倫有を師とせ

時ろを民の心帰服をとゝく勅懲ゝく和合せしめよたゝく人乃疾を去ぐゝく民のゝあり悪をとり去ぐぞ民も咎を仕いざ次ゝるゝし民をそろゝこと赤子とゝくり民の相素黙なゝ

人無或刑人殺人非汝封又曰劓則

人無或劓則人

と討うゝくとい又汝乃ろゝく殺刑又劓耶などろがたゝ

○王曰外事汝陳時皐

司師茲殷罰有倫

乃衛をとゝくゝく巣ハ法なり汝乃国をおさむゝこと右の殷の刑罰をれゝく乃軽

又曰く要囚ハ服重論をとゝぐ念すること五六日を師しことをゝ

旬時于至て丕ゝ

要囚を蔽

王の曰汝時皐と事ことを陳して罪の当る殷轟其義刑義殺用いて庸て以ゝく汝封ゝ次すふこと勿ゝ乃ち汝盡ゝ遜ゝひ時叙ここ曰しも惟未ゝ遜ゝ事有ハ旨ろなんや汝惟小

六日至于旬時丕蔽要囚

其の獄辞乃論と念ゝく工夫とところゝ決断しそ蔽ること

○王曰汝陳時皐事罪蔽殷轟用其

義刑義殺勿庸以次汝封乃汝盡遜

日時叙惟曰未有遜事

常法のごく国を治むべし我心ゝ次て

右の法と陳ろめし刑罰とゝく人を殺ゝ殷乃義理よろゝくとろところ蔽むべし我心ゝ次て

むゝゝ右の法と陳ろめし刑罰とゝく人を殺ゝ殷乃義理よろゝくとろところ蔽むべし我心ゝ次て

○又曰要囚服念五

六日至于旬時丕蔽要囚

王の曰汝時皐と事ことを陳して罪の当る殷轟其義刑義殺用いて庸て以ゝく汝封ゝ次すふこと勿ゝ乃ち汝盡ゝ遜ゝひ時叙ここ曰しも惟未ゝ遜ゝ事有ハ旨ろなんや汝惟小

○王曰汝陳時皐事罪蔽殷轟用其

義刑義殺勿庸以次汝封乃汝盡遜

日時叙惟曰未有遜事

常法のごく国を治むべし我心ゝ次て

右の法と陳ろめし刑罰とゝく人を殺ゝ殷乃義理よろゝくとろところ蔽むべし我心ゝ次て

むゝゝ右の法と陳ろめし刑罰とゝく人を殺ゝ殷乃義理よろゝくとろところ蔽むべし我心ゝ次て

○已汝惟

小子未其汝封之心朕心朕徳
惟乃知○凡民自得罪寇攘姦宄殺越
人于貨暨不畏死罔弗憝
○王曰封元惡大憝矧惟不孝不友
子弗祗服厥父事大傷厥考心于父

子未其汝封之心
朕心朕徳
惟乃知
凡民自得罪
寇攘姦宄
殺越
人于貨
暨不畏死
罔弗
憝

不能于厥子乃疾厥子于弟弗念天
顯乃弗克恭厥兄亦不念鞠子哀
大不友于弟惟弔茲不于我政人得
罪天惟與我民彝大泯乱曰乃其速
由文王作罰刑茲無赦（王又封之詔告今殷の代の事）

の事に服せ弗大ゝ厥考の心を傷る
父ゝ于ゝく厥子と
字しむと能不乃
ち厥子を疾弟ゝ
于て天顯と念弗
乃ち厥兄を恭ふ
こと克弗兄も亦子
と鞠なふの哀と
念弗大ゝ弟于友
さら不惟茲ゝ弔
我政人ゝ于て罪
と得不んば天惟
我ゝ與る民彝大
ゝ泯乱す曰く乃
其速ゝ文王乃

罪を作す由て茲を刑して赦と無し率不い大戛す矧や惟外庶子の人を訓ふる惟厥正人越び小臣の諸の節あるいち別に播し敷民の大譽を造念弗庸弗厥君を寖む時乃ち悪と引惟厥慈む己んや汝乃ち其速やる茲義を由て率ひて殺せ亦惟君惟長厥家人越び厥小臣外正と能せ不惟威惟虐大ゐ王命を放ち乃ち非徳用て乂めん

汝も亦典を敬すふこと克不ことを罔乃ち由て民を裕ふる惟文王之敬忌乃ち民と裕ふして曰く我惟及て有則ち予一人以て懌ばん

王の曰く封爽こ民と惟て迪く吉康とす我惟

外庶子訓人惟厥正人越小臣諸節

乃別播敷造民大戛弗念弗庸厥

君時乃引悪惟朕敷己汝乃其速由

茲義率殺

○不率大戛矧惟

訓ふる官なりもろ〳〵の人と正〳〵しく上〳〵下〳〵の人と小臣既の職と節ひとし〳〵別て私意を以ゐる政事と敷造〳〵く身の誉をのみ念ひて君ひ寖むのいふ悪心と下民より引といふのみなり朕も憨とおのれいふその義を以〳〵これと殺をゞ〳〵

○亦惟君惟長不能厥家

人越厥小臣外正惟威惟虐大放王

命乃非徳用乂

汝も亦国ひ君〳〵ふひ長〳〵るの身〳〵〳〵この家人小臣外正と能ひ〳〵ゆ〳〵ことあり〳〵く威を以て天ひ虐王の命を放うまい次非徳なる乂〳〵ちゝ〳〵ば何とを以て国を治人を服せんや

○汝亦罔不克敬典乃由裕

民惟文王之敬忌乃裕民曰我惟有

及則予一人以懌

汝よく国の典礼と敬〳〵まひり〳〵民と裕ひ〳〵民を裕ひ〳〵ふ〳〵ことをひ〳〵ばいふひ予一人の懌悦

○王曰封爽惟民迪吉康

考文王乃敬忌文王の作法ひ及〳〵ことを朕ひ〳〵

我時其惟殷先哲王徳用康乂民作

求矧今民罔迪不適不迪則罔政在厥邦。王曰。封予惟其殷之先哲王乃德是惟用能用民康乂予小子封亦罔攸求矧今民罔迪不適不迪則罔政在厥邦。王曰。封予惟不可不監告汝德之說于罰之行今民靜未戾厥心迪屢未同爽惟惟民不靜未戾厥心迪屢未同爽惟天其罰殛我其不怨惟厥罪無在多矧曰其尚顯聞于天。王曰。封予惟天其罰殛我其不怨惟厥罪無在多矧曰其尚顯聞于天。王曰。嗚呼。封敬哉。

我民罔迪不適不迪則罔政在厥邦。王曰。封予惟不可不監告汝德之說于罰之行今民靜未戾厥心迪屢未同爽惟天其罰殛我其不怨惟厥罪無在多矧曰其尚顯聞于天。王曰。嗚呼。封敬哉。

我民罔迪不適不迪則罔政在厥邦。王曰。封予惟不可不監告汝德之說于罰之行今民靜未戾厥心迪屢未同爽惟天其罰殛我其不怨惟厥罪無在多矧曰其尚顯聞于天。王曰。嗚呼。封敬哉。

我民罔迪不適不迪則罔政在厥邦。王曰。封予惟不可不監告汝德之說于罰之行今民靜未戾厥心迪屢未同爽惟天其罰殛我其不怨惟厥罪無在多矧曰其尚顯聞于天。王曰。嗚呼。封敬哉。

寧王若曰汝封哉汝念哉無我殄享明乃服命高乃聽用康乂民。（まことよく大命の常定まることを聽き用ひて民を康乂せよ。）

王若曰嗚呼肆汝小子封惟命不于常汝念哉無我殄享明乃服命高乃聽用康乂民。

王の曰く嗚呼肆に汝小子封惟れ命常に于せず汝念ふ哉我が享を殄すこと無かれ乃の服命を明らかにし乃の聽を高くし用て民を康乂せよ

王若曰往哉封敬典聽朕告汝乃以殷民世享。（みぎりて守り常典を敬み朕が告を聽き乃ち殷の民をして世々享まつらしめよ。）

王若曰往哉封敬典聽朕告汝乃以殷民世享

王若曰く往哉封敬典に替つこと勿れ朕が汝に告を聽き乃ち殷の民を以て世享んと

酒誥

王若曰大命汝妹邦。（大命の常定まることを畏れ妹邦の地を悉くし。）

王若曰く大命を妹邦に明らかにせと

乃穆考文王在厥庶邦越小正御事朝夕曰。（穆考文王の厥の庶邦越び小正御事に在るや朝夕に曰く。）

乃ち穆考文王

在厥庶邦越小正御事朝夕曰

国と肇て西土に在厥庶邦越び小正御事に朝夕に曰く

誥毖庶邦庶士越少正御事朝夕曰。（庶邦庶士越び少正御事に誥毖めて朝夕に曰く。）

誥毖庶邦庶士越少正御事朝夕曰

誥毖めて朝夕に曰く

紀予乃其悉教厥正厥長肇牽車牛遠服賈用。（紀予乃其悉く厥の正厥の長に教へ肇て車牛を牽き遠く賈用を服せ。）

紀予乃其悉教厥正厥長肇牽車牛遠服賈用

紀予乃ち其悉く厥の正厥の長に教へ肇て車牛を牽き遠く賈用を服せ

王若曰大命汝妹邦乃穆考文王在厥庶邦越小正御事朝夕曰誥毖庶邦庶士越少正御事朝夕曰紀予乃其悉教厥正厥長肇牽車牛遠服賈用

王若曰く大命を妹邦に明らかにせと乃ち穆考文王在厥庶邦越び小正御事に朝夕に曰く誥毖庶邦庶士越び少正御事に朝夕に曰く紀予乃ち其悉く厥の正厥の長に教へ肇て車牛を牽き遠く賈用を服せ

命不于常汝念哉無我殄享明乃服命高乃聽用康乂民

敬典聽朕告汝乃以殷民世享

酒誥

殷の紂王酒を以て悪を為すこと妹邦の地を悉くし酒を以て戒と為すこと康叔をこの地に封ずるに及び

王若曰大命汝妹邦乃穆考文王在厥庶邦越小正御事朝夕曰誥毖庶邦庶士越少正御事朝夕曰紀予乃其悉教厥正厥長肇牽車牛遠服賈用

正御事朝夕曰紀茲酒惟天降命肇

我民惟元祀

とのたまへるの文体なり

王若曰く大命を妹邦に明らかにせと乃ち穆考文王在厥庶邦越び小正御事に朝夕に曰く誥毖庶邦庶士越び少正御事に朝夕に曰く紀予乃ち其悉く厥の正厥の長に教へ肇て車牛を牽き遠く賈用を服せ

王若曰大命汝妹邦乃穆考文王

肇國在西土厥誥毖庶邦庶士越少

正御事朝夕曰紀茲酒惟天降命肇

我民惟元祀

天降威我民用大亂喪德亦罔非

天威を降し我民を用ふること大に乱て徳を喪ふ亦酒の惟

酒惟行越小大邦用喪亦罔非酒惟
辜（酒ノ酔ヲ辜ト為ス）天ノ下ノ亡ブル威ヲ降シ大乱乃世ニ行ハル身ヲ亡ボス
ろぶ（亡ヲ大国小邦めつぼうすれよりかた）も酒乃辜（亡ヲ）ひとつ人の有正（政）身と有事（政）身と
まりなきのみぬ（ぬるし）

語教小子有正有事無彝酒越庶國
定むべし（教ヘ）とこころ又庶国（衆国）もろ〳〵飲宴乃（ノ）ことに（事）
きい酔（酔）心をもつ（持）徳へたり〳〵戒慎と
だをふ〳〵（ふるまふ）

飲惟祀徳將無酔（又語教ヘたまふ人ハ彝常酒ノ如クセヨ）
〳〵（一一）ぬるし（ぬるし）

土物愛厥心臧聰聽祖考之彝訓越
〇惟曰我民迪小子惟
（一本よい化我民）

小大徳。小子惟一（言フコト一本ヨリ化我民ノ文王徳ト以テ民ヲ化シ）
子孫をおゐ〳〵（追ヒ追ヒ）耕作り心を入（農人ヲ土産乃物ヲ愛惜フ）
処り心をもつ〳〵彝訓と耳り聰聽く純一り守（ル）
つ〳〵（一一）ふるし（ふるし）
小大とハ尤（尤）も大なるものをいふ（人ノ心徳ヲ小少ナルモ）

爾殷肱純其藝黍稷奔走事厥考厥
〇妹土嗣
（殷ノ土地人民）

長肇牽車牛遠服賈用孝養厥父母
（肱ノつとめおこたりなく）農事と耳（ノミ）ならず（ニ）
車を牽（ク）牛馬を以（テ）賈（賈）のこと（事）
（ヲ）なし（ス）父母（ニ）
孝行とつくをなし（ス）父母のこころ（ヲ）慶喜ら（ば）

厥父母慶自洗腆致用酒
（奔走めぐりあるき）父母（ニ）
（教ヘ）民ハとうく（ヲ）農事と耳（ノミ）
（藝ハ）黍稷（ヲ）
（ヲ）なく（ス）
（ヲ）
（ヲ）
（ヲ

士有正越厥伯君子其爾典聽朕教
爾大克羞耆惟君爾乃飲食醉飽丕
惟曰爾克永觀省作稽中德爾尚克
羞饋祀爾乃自今用逸茲乃允惟王
正事之臣茲亦惟天若元德永不忘
在王家

王又對士の庶士有正越り厥伯る君子よ教ふ惟り君よ爾ぢ德よ
年老德ろ人と羞を羞老の祀ーふ事ふ
飲食醉飽のふちと民り命じ考めーふ何克と
觀省ーる正ーくぬ中庸の德ぢ謹
作酒を用ゐーふべーと定めふ父母の慶心と致
ねとふ酒を用致賀とべきたり洗
腆ーこハ洗そふめふを
厚ふーへ

○庶伯君子其爾典聽朕教

庶士有正越び厥伯の君子其爾ぢ典こ朕ガ教と聽

爾大克羞耆惟君爾乃飲食醉飽丕惟曰爾克永觀省作稽中德爾尚克羞饋祀爾乃自今用逸茲乃允惟王正事之臣茲亦惟天若元德永不忘在王家

王の曰封我西土の辈ー徂の郡君御事小子尚くハ克文王の教と用て酒ヲ腆う不故よ我今于至て克殷之命と受

王の曰封我聞惟曰在昔殷の先哲王天顯と小民と畏ろこくと迪く德と經う哲と秉成湯自咸帝乙

時と養老り用ろくわふべー然るバ王の天よりとその德う井ーく王家よ在ーく忘ろくこふーふ長久なり

○王曰封我西土辈徂邦君御事小子尚克用文王教不腆于酒故我至于今克受殷之命

王又のたまふ徂ーー時考文王乃政事と辈ーて徂ーー西土乃邦君并ふ御事の小子ふ酒と不腆の物ーへとまふるかゝへーり今ふいさゝろまく殷乃天よりふ命ぜーーまーー天下とろ周の代ー長久なり

○王曰封我聞惟曰在昔殷先哲王迪畏天顯小民經德秉哲自成湯咸至于帝乙成王畏相惟御事

于至于王又成相
之畏惟御事厥非
恭有敢自暇自
逸厥曰其敢
崇飲我聞亦惟
古之先王迪行
天命之畏敬小民
保乂烝民乃
訓厥事乃逸乃
諺既誕
君六七人出入
相忠臣乃言
非敬厥德乃
崇飲乃非
空暇自逸厥
崇飲乃悖
○越在外服侯甸男衛邦
伯越在內服百僚庶尹惟亞惟服宗
工越百姓里居罔敢湎于酒不惟不
敢亦不暇惟助成王德顯越尹人祗
辟
辟ヲ。外服乃侯甸男衛邦伯越ニ内服乃百僚庶尹惟亞惟服ノ宗工越ニ百姓里居ハ罔敢ニ湎于酒ス不惟不敢亦不暇惟助ケ成ス王ノ德ヲ顯ニシ越ニ尹人ノ祗ミ辟ヲ恭ミ
○我聞亦惟曰在今後
嗣王酣于酒厥
命罔顯于民祇保越怨
不易誕惟厥縱淫泆于非彝用荒喪
威儀民罔
惟自息乃逸厥心疾很不克畏死辜
在商邑越殷國滅無罹弗惟德馨香
祀登聞于天誕惟民怨庶羣自酒腥

一顧ミテ尹人ヲ越ヘテ辟ヲ祇ミ
ム
我聞亦惟曰ク今
嗣王身厥命罔顯于民祇保越怨
不易誕惟厥縱淫泆于非彝用荒喪
威儀民罔
惟自息乃逸厥心疾很不克畏死辜
在商邑越殷國滅無罹弗惟德馨香
祀登聞于天誕惟民怨庶羣自酒腥

惟不厥心疾狠
て死を畏るること克
不享商邑より在殷
国滅ぶるより逃ぐ
罹ること無惟徳の
馨香と祀ること登て
天于聞弗誕ず惟
民怨む庶群酒より
自て腥聞上ゟ在
故ゟ天喪と殷于
降殷于愛ること
罔い惟逸之天虐す
る非惟民自う
享と速まり

人言有曰く人水
ゟ於て監ること無
當に民ゟ於て監
る當今惟殷厥命
を墜す我其大ゟ
監て時于撫不
可けんや

予惟曰く汝劼て
殷の獻臣侯甸男
衛を率ゐ惟
太史の友なる内
史の友なる越び
獻臣百宗工矧
惟爾の事ふ服休
服采矧んや惟若
の疇圻父の違ゟ

聞在上故天降喪于殷罔愛于殷惟
逸天非虐惟民自速享紂王の酒色ふかき身となりぼ
せーとゐく康叔ゟ告いまーめゟ後嗣王ハ紂王こ
受け紂の名なり酒ゟ醪を民ゟ命ぢこと処頭明る
らび祇保べき民も怨といづくろまとゝ改易ど
ゐひ万民盡傷うこと酒色ふ
逸ミ荒く自息ころなくいよく疾狠りて殷乃
滅亡と公り罹不元ゟ馨香徳の天ゟ聞ゆうとつ
ふくこうこ庶群ころ此腥こを天へ聞あらべし
このゆへり天ゟり殷を公ろぼーうふこと紂の放逸ふ
ぶ由なりすべく天ゟり民を虐めとくくゟ人ゟり
うゝど人こふこ
享と速まく

若茲多誥。古人有言曰。人無於水監。

○王曰封予不惟

當於民監今惟殷隊厥命我其可不
大監撫于時。我ゟもとく多言ちべきとうゐ
めをとハ古人の言ふうんぐこと水ぐこくく形を監ゟ
し監く世の形と監ゟや今己ことをゑぐてうく誥ゐ
とうこうゐさり我こと
ゟ時の天下の人民を撫やこんとをきりのく

予惟曰。汝劼慥殷獻臣侯甸男衛矧
太史友内史友越獻臣百宗工矧惟
爾事服休服采矧惟若疇圻父薄違
農父若保宏父定辟矧汝剛制于酒

又誥ろ人ゆう殷の賢臣侯甸男衛と初ろく汝ゟ酒ゐ大害なることを戒いまーめく民こ地盛まーめく

薄農夫の若ゐ保ずふ宏父の辟を定ろ矧や汝剛酒干制ろとや

厥或ひ誥て曰く群飲汝失なふと勿盡く執拘ーて以ーく周于歸ら亨其殺さん

又惟殷之迪けろ諸臣惟工乃ち酒

ふとを詔べーと矧くや周乃典則を執司大史以下乃人々を尤も剛この外条守ぎぎーく毫臣とを賢臣ーり大史内史の官を典則とつるごく友ろいろうーく百の諺乃工官なり服休ひ坐ーく事とろくの服采ひ起ーく叟とそうくひ道と諺う人今を汝上乃命ーり違ーのと薄逐ーふざくふーくひ成つるさごく農父を教と司ごく万民と若保ぶごく宏父ら民の居と司ごくり辟を定むーく知や汝乃身ら一国の視ふーくふところ」が尤ろ剛つーこ制ふぞささや

盡執拘以歸于周于其殺

○厥或誥曰群飲汝勿佚

この時殷の悪風俗のこうりく君飲こーく人群會ーく酒こうりて悪をたーむーのあり汝佚失こふく執拘ーく周の土へおくべーその品ーく赦と殺とと定むぞーとなり

○又惟殷之迪諸臣

惟工乃湎于酒勿庸殺之姑惟教之

又悪ーく迪ーろをりまく酒ら湎ーこーく諸臣ぐる一旦も深気ーく人ーと姑く殺をしるくまらいまーめ教こふべーこーふり

○有斯明享乃不用我教

辞惟我一人弗恤弗蠲乃事時同于殺

今我命をめしつよ斯教と用ふら有ら汝等ら弗蠲と引享てーり教辞とからいざーこきなく殺刑こり同くむこるいん

○王曰封

汝典聽朕毖勿辯乃司民湎于酒

朕ら毖慎ときくべーり汝ぐら司乃ーのといよーめ辯むーこーふきーこれを下乃民ーりこり酒ら滅ろぐそとなり

梓材

王曰封以厥庶民暨厥臣達大家以厥臣達王惟邦君。（庶民小臣の万姓と大夫の家ノ達ルトコロ、及ビ王ノ教ト民ノ情上ヘ通ジ達スルトコロ、及ビ民ノ情ヲ通ジ達スルトコロヲ示シ、カヾコトヲ以テ王ニ達シ、惟邦君ヲ輔ケ、中央ノ上ノ情ヲ通ジ達スルナリ）

梓材　天下の政務を執ることを梓人の材木を揉めるに譬へたるなり

王曰。封以厥庶民暨厥臣達大家。以厥臣達王惟邦君。（庶民小臣の万姓と大夫の家ノ達ルトコロ、及ビ王ノ教ト民ノ情上ヘ通ジ達スルトコロヲ示シ、カヾコトヲ以テ王ニ達シ、惟邦君ヲ輔ケ、中央ノ上ノ情ヲ通ジ達スルナリ）

○汝若恒越曰。我有師師司徒司馬司空尹旅。曰予罔厥殺人。亦厥君先敬勞肆徂厥敬勞肆徂姦宄殺人歷人宥肆亦見厥君事戕敗人宥（汝恒ノ若ニ越ヘ曰ク我ニ師師ノ司徒司馬司空尹旅ニ曰ク予罔ク厥ノ殺人ヲ有ス肆ニ亦厥ノ君先ニ敬勞ス肆ニ徂ク厥ノ敬勞ヲ有ス肆ニ徂ク姦宄殺人歷人ヲ宥ス肆ニ亦見ル厥ノ君事ヲ戕敗人ヲ宥ス）

○汝若恒越曰。我有師師司徒司馬司空尹旅。曰予罔厥殺人。亦厥君先敬勞肆徂厥敬勞肆徂姦宄殺人歷人宥肆亦見厥君事戕敗人宥（汝恒ノ若ニ越ヘ曰ク我ニ師師ノ司徒司馬司空尹旅ニ曰ク予罔ク厥ノ殺人ヲ有ス肆ニ亦厥ノ君先ニ敬勞ス肆ニ徂ク厥ノ敬勞ヲ有ス肆ニ徂ク姦宄殺人歷人ヲ宥ス肆ニ亦見ル厥ノ君事ヲ戕敗人ヲ宥ス）

君先敬勞す肆に徂て厥敬勞す肆に徂く姦宄殺歷人を宥す肆に亦厥君の事を見て人を戕敗す宥を

王監を啓て厥亂むること民の爲なり曰く昏戕を無寡を虐ふこと無寡を敬ふ于至婦を屬ふ于至合由以て容王其郡君

人宥肆亦見厥君事戕敗人宥（汝恒ノ若ニ越ヘ曰ク我ニ師師ノ司徒司馬司空尹旅ニ曰ク予罔ク厥ノ殺人ヲ有ス肆ニ亦厥ノ君先ニ敬勞ス肆ニ徂ク厥ノ敬勞ヲ有ス肆ニ徂ク姦宄殺人歷人ヲ宥ス肆ニ亦見ル厥ノ君事ヲ戕敗人ヲ宥ス）

○王啓監厥亂爲民曰。無胥戕無胥虐至于敬寡至于屬婦合由以容王其效邦君越御事厥命曰以引養引恬自古王若茲。

監罔攸辟。

康叔ヲ殷ノ国ノ監官ヲ統ベシメ玉フ。

監ノ官ト啓ヲ設ケ民ノ爲ニ支ヲ亂シ依リ監官ノ命ニ困窮乃寡ソノ妻ト不敬ベシ婦児ヲソノ一類ニ屬テ逃ゲ避ケ又邦君御事ニ命ジテ曷以故ゾト問ハシメ玉フニ惟曰若稽田既勤敷菑惟其陳修爲厥疆畎若作室家既勤垣墉惟其塗塈茨若作梓材既勤樸斲惟其塗丹雘。

監官ノ役ヲ勤メタル農民乃田畠ヲ稽ヘ溝ヲ設ケ草棘ヲ敷菑ヲ除キ修陳シテ疆畎ヲ爲リ又室家ヲ作リ垣墉ヲ塗塈シ梓材ヲ樸斲シテ丹雘ヲ塗ルガ若シ室家ヲ作ルガ既ニ勤テ垣墉ヲ塗塈シテ茨ヲ梓材ヲ作リ既ニ勤テ樸斲シテ丹雘ヲ塗ルガ若シ今王惟曰先王既勤用明德懷爲

○今王惟曰先王既勤用明德懷爲夾庶邦享作兄爺方來亦既用明德后式典集庶邦丕享

先王明德ヲ天下ニ勤ムルガ遠キ方ヲ懷ケ夾附ケヨリノ庶邦朝享ヲ爺国ヲ兄ノ如クナリト又明德ヲ用ヒ旧典ヲ后ノ如クニ庶邦ヲ集和クシテ德ヲ享ケタリ

○皇天既付中國民越厥疆土于先王肆王惟德用和懌先後迷民用懌先王受命

皇天ノ中国ノ愚迷ナル民ト以テ先王ノ疆土ヲ付ケタマヒシ中国ノ民ト先後ク先王ノ德トヲ受ケ玉ヒシ天ノ命ヲ

壁ト塗屋ヲ茨ク如クニ庶邦ヲ治メ玉ヒシノミニ非ズ梓材ヲ樸斲シテ丹雘ヲ塗ルガ如クニ庶邦ヲ治メ玉ヒシナリ

○今王惟曰先王既勤用明德懷爲夾庶邦享作兄爺方來亦既用明德后式典集庶邦丕享

先王明德ヲ天下ニ勤ムルガ遠キ方ヲ懷ケ夾附ケヨリノ庶邦朝享ヲ爺国ヲ兄ノ如クナリト又明德ヲ用ヒ旧典ヲ后ノ如クニ庶邦ヲ集和クシテ德ヲ享ケタリ

○皇天既付中國民越厥疆土于先王肆王惟德用和懌先後迷民用懌先王受命

皇天ノ中国ノ愚迷ナル民ト以テ先王ノ疆土ヲ付ケタマヒシ中国ノ民ト先後ク先王ノ德トヲ受ケ玉ヒシ天ノ命ヲ

己茲の若く監せよ惟曰く萬年于至て惟王子子孫孫と欲す子子孫孫永く民を保せん

怡懌しめ給ふ○己若茲監惟曰欲王
まつりたまふ
于萬年惟王子子孫孫永保民
若の茲天子萬年上さくへたまふ子々孫々
まぐくも万民と保ちうくへと欲ふ
の務

書經卷之四終

書經卷之四終